

# かぐらおか

(題字は初代学長 山田守英氏)

## 第 160 号

平成 27 年 8 月 1 日

編集 旭川医科大学  
発行 教務部学生支援課



「2015 年度 医大祭『医祭楽祭～いっさいがっさい～ ALL FOR ONE(41)』」

(写真撮影:学生支援課)

### 2015年度入学式 学長式辞

新入生を迎えて .....	吉田 晃敏 .....	2
医学科新入生を迎えて .....	三好 暢博 .....	5
WLB・TLC・YDK .....	升田由美子 .....	6
教授就任のご挨拶 .....	及川 賢輔 .....	7
教授就任のご挨拶 .....	武井 英博 .....	8
旭川医科大学に入学して .....	氏家珠々美 .....	9
旭川医科大学に入学して .....	久保田光祐 .....	9
旭川医科大学に入学して .....	平岡真理子 .....	10
旭川医科大学に入学して .....	細野 将太 .....	10
旭川医科大学に入学して .....	角田みなど .....	11
旭川医科大学に入学して .....	菅原 愛海 .....	11
平成27年度入学式 .....		12
医学科入学式 集合写真 .....		13

看護学科入学式 集合写真 .....	13	
平成27年度新入生合同研修会 .....	14	
授業評価(平成26年度後期) .....	15	
医大祭2015を終えて .....	飯田 敏史 .....	35
医大祭写真集 .....	36	
国民年金の学生納付特例申請が 大学内で可能になりました .....	37	
カルト宗教の勧誘に注意を! .....	38	
授業料免除申請について .....	38	
H27.7以降の役員等について .....	39	
教員の異動 .....	39	
今後のスケジュール .....	40	
第160号表紙 .....	40	



2015年度入学式 学長式辞 (2015. 4. 6)

## 新入生を迎えて

学 長 吉 田 晃 敏

(今回はご要望により、2015年4月6日に行われた入学式 学長式辞を原文のまま掲載いたします。)

待ち望んだ春が、ここ旭川の大地にも訪れました。これまでの努力が見事に実を結び、こうして本学の門をくぐった皆さんにとっては、まさに待ちに待った春到来と思います。

ご来賓の皆様並びにご家族の皆様がご列席のもと、本学の入学式を迎えられる慶びを教職員一同と共に今改めて囁みしめております。

本日入学された医学科第一学年112名の皆さん、看護学科第一学年60名の皆さん、ご入学おめでとうございます。そして、皆さんを支えて来られましたご家族や関係者の皆様にもお祝いを申し上げます。本学を代表し、皆さんを心から歓迎致します。今日からは、ここ旭川医科大学が皆さんの「夢を実現する舞台」です。私達教職員は、皆さんがこの「夢」を実現出来るよう、全力で応援していきます。21世紀を担う良識ある医療人を目指して、共に切磋琢磨してまいります。

思い起こせば4年前の2011年3月、私達の日本はかつて体験したことのない大震災に見舞われました。当時、皆さんの多くはまだ中学生だったはずですが。その後高校生活を経て、ついに大学へと歩みを進めました。皆さん達も医療人となるにあたって、生きることを意味を思い巡らせて来たのではないのでしょうか。

医師を志す人、看護職者を目指す人、あるいは

研究者を目指す人……。新入生それぞれが「夢」を描いてこの場に臨んでいることと思います。この「夢」、初心を決して忘れないで下さい。

さて、今医療を取り巻く現状には非常に厳しいものがあります。その根幹は、いわゆる医師不足、看護師不足です。国が医師の増員へと大きく舵を切ったことで、確かに医師の数は増え続けています。しかし、医療格差は依然として存在しています。ここ北海道は特に多くの病院で医師が不足しています。昨年6月、北海道の調査によりますと、診療機能を維持する上で不足している医師数は1,144名で、3年前の不足数とほぼ同数でした。北海道では毎年300名を超える医師が誕生しているにもかかわらず、医師不足が続いているのが現状です。

一方、看護師不足もまた深刻です。国が看護体制を見直したことで看護師のニーズが一気に高まり、もはや慢性的とも言える看護師不足状態が全国で続いています。

とはいえ、現在医師は毎年8千人程度増加しています。また看護師は5万人程度増加しています。このままでは数字の上では、いつしか医師や看護師の数は十分足りる時代になるはずですが。しかし、いくら医師や看護師が増えても、医療格差はなかなか解消しません。事実そうでした。理由はなぜか。

私は、いくら医師や看護師の数が増えても、「志」ある医師、「志」ある看護職者が増えない限り、医療格差は解消しないと思っています。

思い起こせば今から42年前、当時すでに都市部と地方の医療格差が拡大しつつありました。そんな中で、志ある地域医療を担う若者を育てたいという高い理想の元で国が設置した新設の第一号の医科大学、それが他にもない、ここ旭川医科大学でした。

大学設立から半世紀近く経った今もなお、「必要とされる医療を、誰もがどこにいても受けられる北海道になってほしい」という本学創立の夢は、残念ながらまだ道半ばです。

もっと、ここ北海道で汗を流す医療人を育成したい。そう考えた私達は入試制度を抜本的に改革し、特に北海道在住の若者達に門戸を大きく広げてきました。その結果、今年度の医学科入学生は北海道出身者が6割以上を占めています。本学の門をくぐった以上は、医学科の皆さんも看護学科の皆さんも、北海道出身であつても道外出身であつても、今日からは共に学ぶ仲間同士です。是非、将来はここ北海道の大地で、先進医療を推進している母校や全道の地域医療の現場で、貢献して欲しいと願っています。

最近、国際化の進む中、医学教育も国際的な評価を求められる時代となりました。そこで本学では新しいカリキュラムを編成しました。このカリキュラムは今日入学された皆さん方から適用になります。

このように、本学では国際的ないわゆるグローバルな変化と、地域医療などローカルなニーズに、同時に対応できる医療人の育成を積極的に進めています。

ところで、入学された皆さんの中には「もう自分の夢が叶った」と安心している方もいるでしょう。しかし、ここに大きな落とし穴があります。ここ数年、医学科第一学年では、成績不良により留年する学生が多いという残念な現実があります。

医学の学びは覚える知識は膨大ですが、それ以上に、新たな問題を見つけ解決していく能力が要求されます。本学では入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）として「自ら問題を見つけ、解決する意欲と行動力」を求めています。大学での学びでは、教科書を単に覚えるのではなく、自ら分かっていない部分を明らかにし、それを自分の力で理解し応用できるようにしていく必要があります。しかも、それを生涯継続することが必要です。

大学は教師が手取り足取り教えてくれた高校、予備校とは全く違います。皆さん自身が自ら舵取り役にならなければ、多くを学べない場所です。自らが目標を定め、自ら道を切り開いて前に進んで下さい。

さて、本学では本気で勉強しようとする学生諸君のために、ハード面・ソフト面ともに最高の環境を整えてきました。

たとえば、医学科では第一学年と第二学年に、学年担任とは別に「グループ担任制度」を導入しました。すなわち、学生10人程度を1グループとして、各グループに臨床医学の教員を一人ずつ配置しました。さらに、第一学年から第三学年の各学年に、臨床系の教授を「アドバイザー」として配置しました。従って、学年担任、グループ担任、そしてアドバイザーが協力しながら、個別相談や質問に対し常に親切で適切な助言、指導が行えるサポート体制を整えています。

また、講義や実習を行う講義実習棟を2年間かけて全面的に新しくしました。図書館はこれまでの図書館を全面改修し、また5割増築しました。従って、皆さんは入学初年度から最新の施設を自由に使えるようになりました。

さらに、外国の大学への留学や語学研修に行く場合、あるいは外国の大学との交流を行う場合に費用の一部を助成する制度も揃えております。更に、万一経済的な問題が発生した時の奨

学金制度など、バックアップ体制も整っております。あとは皆さんの学び続ける「意欲」にかかっています。

皆さんは旭川医科大学に入学したことで夢が実現したのではなく、単に夢の実現に向けたスタートラインに立っただけに過ぎません。この言葉を良く噛みしめて頂きたいと思います。

そして、もう一つ大切なことがあります。それは、人としての基本的な「コミュニケーション能力」を第一学年の時から身に付けて頂きたいということです。医師として看護職者として仮に最高の技術を身に付けたとしても、他者とのコミュニケーション能力に欠けるならば、その人は最善の医療人とは言えません。友人や先輩そして教員に対する挨拶一つを取ってみても、その人のコミュニケーション能力が見えてきます。

この最も基本的な挨拶の意味するもの、それは何でしょうか？それは「他人への思いやり」、すなわち、「他者への配慮」です。壁にぶつかった友人、自分のために時間を割いてくれた先輩、そして自分達のお世話をしてくれている教職員への挨拶。その中に込められた思いは、「他の人への配慮」です。

大学は共に学ぶ場であると共に、時に競い合う場でもあります。しかし、どんな場であつても他者を気遣う「コミュニケーション能力」があれば、それは卒業後も皆さんにとってかけがえのない財産になると信じています。最近、「医療人としての倫理観」が大きな問題となっています。この倫理観を学ぶためにも、基本的な「コミュニケーション能力」、「他者への配慮」といった医療人としての基本姿勢を、是非、第一学年のうちに身に付けてください。

確かに適切な医療技術が、そして適切な薬が病や傷を癒します。しかし、他者への配慮があつてこそ、その技術が花開きその薬が生きてく

るのです。だからこそ、「医は人なり」なのです。旭川医科大学は命と向き合う最良の医療人を目指す皆さんを心から応援します。

看護学科の皆さんはこれから4年間、医学科の皆さんは6年間、それぞれの胸に秘めている大きな目標に向かい精進してください。旭川医科大学は、皆さんを応援します。

さあ！皆さんが医師・看護職者になるその日を、患者さん達は心から待っております。

今日この良き日に、ここに集う若き未来の医療人たちの活躍を心から祈念し、学長からの歓迎と激励の言葉と致します。

入学おめでとう！

平成27年4月6日





# 医学科新入生を迎えて

医学科第1学年担当 三好暢博

ご入学おめでとうございます。みなさんが入学されてから、既に3か月になります。もうすぐ夏季休業にはいります。大学生活に慣れたでしょうか。この3か月間、新入生歓迎行事、早期体験実習、学園祭、中間試験といろいろな体験をしたことでしょうか。楽しく毎日を過ごすことができたでしょうか。瞬く間に、時間が過ぎたと感じた人もいないのでしょうか。

医師を志すみなさんは、その第一歩を踏み出した段階にあります。みなさんには、医師として社会に貢献するために必要な知識・技能・態度を修得し、医師としての職業倫理を身に着けることが求められています。本学は、卒業時まで、みなさんが上述の素養を身に着けることができるように教育課程を編成しています。このために要求される学習量は、最もハードルが低い第1学年であっても、受験時に必要とされた学習量の3倍は最低必要でしょう。6年後の国家試験に向けて、処理すべき情報量、習得すべき知識・技能は、学年を追うごとに増大していきます。自己学習の習慣をできるだけ早い段階で確立しましょう。

大学で学業を修めるといことは、学業に対し自ら積極的に取り組むことが重要です。大学は自ら学ぼうとする人を対象にデザインされた教育機関です。自己の理解度を確認し、積極的に学業に取り組み、自己を磨いてください。将来、頑張った分だけ成長した自分を見出すでしょう。努力は必ず報われるというような無責任なことを言っているのではありません。みなさんは、入学者選抜を勝ち抜いて今ここにいます。みなさん一人一人は、「研鑽を積むことで素晴らしい医療人となって社会に貢献できる素質がある」と本学が判断した人物なのです。自分を信じてしっかり頑張ってください。

学業も大事ですが、友人と交流することも大事です。みなさんの多くは青年期にあり、自己の人間性を豊かにする上でとても大切な時期にもあります。

私個人の経験で恐縮ですが、大学時代にさまざまな友人と付き合うことで学んだことは非常に多く、大変貴重な時間であったと思います。みなさんは、志を一にする仲間が集まったという大変恵まれた環境にいます。この環境を生かし、切磋琢磨しあって成長して欲しいと心から願っています。

また、さまざまな人と交流することは、医師にとって重要とされるコミュニケーション能力の涵養につながるでしょう。みなさんが、いつも笑顔で挨拶してくれることをとてもうれしく思っています。みなさんは、入学式の吉田学長の訓示を覚えているでしょうか。コミュニケーションにとって最も重要なことは、他者への思いやりと敬意です。周りの人に対する敬意と思いやりをはぐくみ、インターパーソナルスキルを培ってください。このようなスキルは、将来チーム医療の現場や研究を進めていく上で非常に有益なスキルとなるでしょう。

みなさんの多くは、よい成績で進学校を卒業して、本学に入学したことと思います。優秀な学生が集まっているので、試験の順位で驚くことがあるかもしれませんが、また、自分より優秀な優秀が大勢いて、焦りを感じる人もいるでしょう。あるいは、自分がかかなり優秀だったと安心している人もいるかもしれません。しかし、このような些末なことに拘泥してはいけません。「人生の成功は才能で決まるのではなく、自分の持ちうるものをどれだけ発揮できるかによって決まる」という教えを、私は師から授かりました。この言葉は、私自身の日々の戒めでもあります。みなさんも、自己をきちんと評価し、慢心せず、悲観せず、日々を送ってください。

医師としての自己を実現できるよう、本学で様々なことに真剣に打ち込み、充実した学生生活を送ることを祈念しております。



# WLB・TLC・YDK

看護学科第1学年担当 升 田 由美子

新入生のみなさんが4月に大学の門をくぐり、早3か月が過ぎました。入学おめでとうございます、はすでにお伝えしたので、本稿では別の視点で皆さんの学生生活にエールを送りたいと思います。

さて皆さんは表題を見て、何を連想しましたか。WLBだったら、白血球やワールドベースボールクラシックですが、WLBってなんでしょう？TLCは全肺気量や米国女性R&Bグループと同じですが、本稿では違うものを指しています。YDKって？窓じゃあ、ありません。

## 1. WLB

WLBは「ワークライフバランス」すなわち「仕事と生活の調和」です。内閣府は平成19年に“WLB憲章及び推進のための行動指針”を策定しています。本学には教職員のWLBを支援するために二輪草センターが設置されています（詳細は大学のwebsite参照）。みなさんはまだ学生ですが、ワークは学習や研究活動、生活は部活動やアルバイト、と考えると、すでにワークとライフのバランスに苦慮しているかもしれません。充実した学生生活を送るためにはこのWLBが非常に大切だと私は考えています。

本業であるはずのワーク（講義や演習、レポート等の課題、実習など）がおろそかになっている学生に理由を尋ねると、多くは「部活の大会（合宿）が……」「バイトが休めなくて」というように話します。本末転倒も甚だしいのですが、それがさも正当な理由かのように言われるケースが増えています。ライフに比重を置きすぎているか、ときどき自己点検してください。部活は人間関係の広がりや、アルバイトは経済的な効果も期待できるいずれも有益な体験です。あくまでもバランスの問題だと思います。本業であるワークが押しつぶされないよう、コントロールしてください。看護を実践する際に「優先順位」が重要になります。皆さんも自分の生活や行動の優先順位を見極めてください。ぜひこの4年間を有効に使ってほしいと思います。

## 2. TLC

次にTLC、これはtender loving careを表す略語です。日本語で言えば思いやりのあるケア。「愛護的」とも訳すことができます。英語文献でこの“T

LC”を見たとき、手元にあった大きめの英英辞典で調べて意味を知り大変驚きました。たった3文字で看護に大切なことを表現しているからです。どんなに優れた看護技術も思いやりがなくては成立しないと思います。

将来、何らかの形で看護職に就くであろう皆さんには、いつもTLCを頭と心にとめておいていただきたいと願っています。頭と心と言えば、看護師は「クールな頭」と「ホットなハート」もぜひ持ち合わせてほしいものです。同じ看護を志す仲間との出会いを大切に、生涯の友となるであろう仲間と熱く看護について語りましょう。

## 3. YDK

そして最後のYDKは「やれば・できる・子」の頭文字です（某学習塾のCMを参照）。受験戦争を勝ち抜いて、本学に入学してきた皆さんは学習することが得意なはずです。「やればできる子」（大学生のみなさんをお子様呼ばわりしてごめんなさい）なのだから、あとは「やる」だけです。良く学ぶも、学ばないもあなた次第。とは言っても、将来医療者となる皆さんにはその職務に見合った学習成果と能力が求められています。この道を志したからには手抜きせず、「やり遂げて」いただきたいと切に願っています。

## 4. 終わりに

私は平成8年の看護学科開設と同時に教育の現場にきました。旭川医科大学看護学科とともに教員生活を歩み、今年初めて学年担当を務めています。皆さんとおなじく、学担「1年生」です。いろいろとわからないこともあります。皆さんが充実した大学生活を送ることができるよう、教職員そして学生の皆さんと協働して、職責を果たしたいと思います。学担はもちろんです。教職員一同が皆さんのサポーターであり、リソースパーソンです。どんどん活用してください。コミュニケーションをとりながら歩んでいきましょう。



## 教授就任のご挨拶

看護学講座病態学領域 教授 及川 賢 輔

平成27年4月1日付で、看護学講座病態学領域の教授を拝命いたしました。私は北海道・十勝の池田町で生まれ育ち、帯広柏葉高等学校から本学医学部に進学、第17期生として卒業し、医師となりました。本学同窓生として母校運営に関わる職責の一端を任せていただけることは、身に余る光栄です。微力ながら至誠を尽くして、看護学講座の発展のために、ひいては本学の発展のために、職務に専心・努力する所存です。

ここで私の経歴をご紹介します。平成7年に医師となり、本学第一外科学講座に入局いたしました。患者をメスの力で速やかに治癒・回復させる、外科の世界にあこがれての入局でした。入局当初は名誉教授の久保良彦先生、その後笹嶋唯博先生が教授をお務めの時代で、入局より5年間、芽室町立病院や留萌市立総合病院などの関連病院で、外科医としての研修を受け、その間たくさんの第一外科の諸先生よりご指導を頂きましたことは、感謝の念に堪えません。

その後平成11年、外科認定医取得の年に、本学大学院に進学し、片桐一先生が教授をされていた第2病理学講座（現 病理学講座 免疫病理分野）に籍をおくこととなります。そこでの研究生活が私にとっての大きな転換点でした。研究においては本年3月に看護学講座教授を退任された木村昭治先生に、外科病理学・診断病理学に関しては立野正敏先生からご指導を受けました。両先生によって導かれ、外科から一時離れて立ち止まった時に見えてきたのは、医学研究と診断病理の面白さでした。4年間の大学院生活を修了したとき、自分の適性も再考して、病理医への転向を決意しました。

第2病理にそのまま籍を置いてわずか一年後、留学の話が舞い降りてきました。当時は行くべきか否か悩みましたが、諸先生方のお勧めもあり、博士研究員としてカナダ留学の運びとなりました。主にア

ルツハイマー病のモデルマウスを用いた神経科学分野の研究に従事した留学生活は、研究者としての心構えや自分自身のモチベーションの所在を確認できた有意義な経験でした。

帰国後は、リサーチの世界から一旦離れ、旭川厚生病院そして旭川医大病院の病理部にて診断病理の研修を受け、2011年には病理専門医を取得し、病理医としての道を歩み始めました。ただその間も研究に対する熱意は冷めず、いつかまた研究ができる日々を夢みていたところ、幸運にも2013年に、本学病理学講座免疫病理分野教授の小林博也先生のご高配により、病理学講座の助教として研究を再開することができました。さらに小林先生のお力添えにより、異動してわずか間に講師を拝命し、木村先生退任後の現職に至ることができました。

研究では誰も見たことのない世界を見てみたいという思い、病理の世界では医療・社会に貢献したいという思いで、ただ目の前にある仕事を、精一杯こなしてきたら、いつの間にか今の場所に導かれました。思いがけず頂いたこの好機に感謝しつつ、これからも精進して、学び多き充実した時を積み重ねていければと願っております。

震災以後、医療においてもケアが重要視され、看護への期待が高まってきています。昨年、母を緩和ケアで看取った際、看護の重要性を改めて実感いたしました。今後は看護学講座の教員の一人として、医学的知識を備えた意識の高い看護師の育成に貢献したいと思います。そして時間の許す限り、病理医として地域医療にも貢献し、自らの神経科学分野の研究も発展させたいと考えています。



## 教授就任のご挨拶

病理部 教授 武井 英 博

平成27年5月1日付けで、病理部教授を拝命いたしました 武井英博です。私は、愛知県出身で、平成2年に防衛医科大学校を卒業し、2年間の各科学科ローテーション方式の初任実務研修、2年間の耳鼻咽喉科研修、2年間の病理研修を終えた後、渡米し、米国ニューオーリンズのルイジアナ州立大学で病理、臨床検査医学のレジデント研修を行いました。その後、自衛隊札幌病院に2年間勤務して、再渡米し、1年間の細胞診断、(ヒューストンのベイラー医科大学で)2年間の神経病理、1年間の分子病理学&遺伝学の専門フェロー研修をした後、旭川医大に来るまで、ヒューストンメソヂスト病院で病理医として、そして、コーネル大学医学部の准教授として約8年間勤務していました。取得資格としましては、日本の病理専門医、臨床検査専門医、細胞診専門医、米国の病理、臨床検査医学、細胞診断、神経病理、分子病理&遺伝学の計7つの専門医資格を有しています。

米国では、臨床では、幅広い分野の病理診断と分子病理学を通して臨床検査医学に携わってきました。さらに、部門の長として、病理解剖を積極的に行っていました。教育では、米国では、人に教えることが学ぶことであるとの視点に立ち、とにかく丁寧に教えることに重点を置いて、一般病理、臨床検査医学のレジデント、神経病理、細胞診断、分子細胞病理&遺伝学の専門研修フェローに対して教育を行ってきました。研究では、脳腫瘍、神経変性疾患の分子病理学的、免疫組織学的な研究、てんかんの病理組織、免疫組織学的な研究、また、遺伝子検査の細胞診での応用の研究を、肺癌、膵胆道系の癌、甲状腺癌で行っていました。

私は、旭川医大には自分が4年間日本で、16年間米国で学んだ幅広い病理、検査医学の知識を次世代を担う学生、研修医に教育したいと思って参りました。一般病理、細胞診断は、形態学が主体で、形態を中心に教育するのは当然ですが、それに加え、臨床的なバックグラウンド、関連する臨床検査、分子病理的な部分も教育したいと考えております。これからの医師は、日本のみならず世界に眼を向けていくことが不可欠となってきています。私は、世界のスタンダードとしての一般的な病理、検査医学の知識を学ばせることが最大の卒前、卒後教育の目標と考えています。また、他科との協力もたいへん重要で、通常の外科病理の診断のみならず、いろいろな分野の最新の臨床情報を世界に発信するお手伝いが病理医としてできたら幸せだと思います。最後に、カンファレンス、研修医教育など様々なニーズに対応できるように努力いたしますので、皆様のご指導、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 氏 家 珠々美



旭川医科大学に入学して3ヶ月が経ちました。新しい事ばかりで、私の経験した中で最も密度の高い3ヶ月でした。

新入生歓迎会の洗礼を受け先輩方の熱気に圧されつつもその熱意に触れ、旭医師の一員となった事を自覚した4月。5月からは本格的に講義や実習が始まり、レポートやテストに奮闘する毎日です。生物学実習では標本のスケッチがあり、美術部員である私は拘りすぎて色塗りに長時間かけてしまうこともありました(汗)

また、5月末には早期体験実習Ⅰがありました。私のグループは特別養護老人ホームに赴き入居している高齢者の方々とコミュニケーションをとり、施設を支えるスタッフの方々から貴重なお話を聞きました。実際に高齢者の方が乗られている車いすを押して、想像力を働かせ起こりうる危険を予測しそれを防ぐ能力は様々な場面で必要とされているのだと

感じました。また、他職種との連携について現場の栄養士の方や看護師の方にお話を聞いたことが大変興味深く、実りある実習となりました。さらにグループホームの見学においては、特別養護老人ホームとの違いを始め社会福祉全体の仕組みのお話までして頂き、これからの高齢社会について考えるきっかけとなりました。将来高齢社会の中で働いていく私たちにとって、社会の実情や変化に目を向け自分でも考えていく事が必要だと思いました。実習によって医療人になるための第一歩を踏み出せたような気がします。来年も早期体験実習Ⅱがあるので今から楽しみです。

大学生となり、やはり今までとは違う学習に対する不安がありました。確かに一人きりで学習するのは大変ですが、先生に質問しに行ったり友人と話し合いながら問題を解いたりする事で、理解を深めることが出来ました。大学で求められる能動的な学習法を身につけていきたいです。初心を忘れず、理想とする医師像を目指し日々励みたいと思います。

## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 久保田 光 祐



私は一年間の浪人生活を経て旭川医科大学に入学しました。高校2年生のときから希望していた大学だったので、合格したときはとても嬉しかったです。

私にとってこの大学の最大の魅力は、地域医療について深く学べることです。一年生のうちから早期体験実習や地域医療学といった地域医療について学べる機会があり、将来地域医療で活躍したい人にとっては有意義な体験になると思います。私は、この度の早期体験実習で比布にある特別養護老人ホームに行ってきました。ここでは、今の日本の地域がかかえる問題点や、介護と医療がこれからどのように協力して関わっていかればいいのかを考え、学ぶことができました。まだ医学について知識の乏しい一年生のうちからこういった体験をすることにより、固定観念にとらわれない広い視野で医療や介護について考えることができたと思います。地域医療学では、今まで私たちが持っていた地域医療へのイメージが覆されました。ここでは実際に地域医療に携わってきた先生方が講義をしてくださるの

で、内容がリアルで、今まで私たちがテレビやドラマなどを見て思い描いていたものとは違い、本当の地域医療が学べると思いました。

また、この大学ではほとんどが必修科目であるため、学年全員が同じ講義を一齐に学びます。なので、必然的にいっぱい知り合いができました。さらに医学科は6年間あるので、これから日にちを経つごとにどんどん親密な仲になっていけることを期待しています。そして、テスト前に友達同士で協力し合いながら勉強し、テストを乗り越えるこの大学の学生の姿はとても素晴らしいものだと感じています。テスト前には、さらに友達同士仲良くなれると思いました。協力し合うことは、今後医療職者を目指す者にとってはとても大切なことだと思います。これからも協力する姿勢を忘れず、地域医療に従事する医師にとって必要なスキルを学んでいきたいと思いません。

## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 平岡 真理子



旭川医科大学に入学してから、数か月がたちました。勉強に部活動に、と忙しくはありませんが、充実した毎日を送っています。

簡単に自己紹介をします。私は以前関西の大学の法学部を卒業後、民間中堅の電子部品メーカーの人事部で働いていました。医者になろうと決意して勉強し、今年何とか旭川医科大学に入学することができました。大阪出身ということもあり、「よくここまで来たね」と言われることもあります。旭川で進学することには全く抵抗はありませんでした。受験の時に初めて旭川に来ましたが、街並みは一目で気に入り、ぜひこの町で勉強したいと思いました。実際旭川で生活を始めてみて、戸惑うこともあります。大阪よりずっと寒いですし、言葉も違います。私もこの数か月ですっかり関西弁はなりをひそめてしまいました。これからやってくる冬には少し覚悟もいりますが、とりあえずはまず北海道の夏を満喫したいです。

さて、この入学してからの数か月の間には、早速早期体験実習という外部での実習もありました。私は特別養護老人ホームで実習をさせていただき、実際の医療・福祉の現場を見学・体験することができ、非常に貴重な経験ができました。早い時期に、医療者になる者として自覚を持つことができる機会があるのはとてもありがたいことだと思います。学内での勉強は、一回生の現在は今後の基礎となる科目です。正直、勉強には非常に不安があります。ですが、教育の場で与えていただくことをしっかりと受け止めて吸収し、将来立派な医師になりたいと思います。

最後に部活動について触れます。私はマネージャーとして競技スキー部に所属しています。北海道に来たからには冬を満喫しようと入部を決めました。本格的な活動はこれから始まりますが、今からとても楽しみです。マネージャーとしてできることは限られていますが、選手が満足いく結果を残すことができるように、精一杯サポートしていきたいと思っています。

## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 細野 将太



ふと数えてみると大学に入学してから3か月が経っていました。「もう三か月経ったか!」と感じるほどあっという間であったし、「まだ3か月か!」と感じるほど様々なことを体験してきました。

はじめは、見知らぬ土地で誰も知り合いのいない中生活していくことが心配でした。しかし入学してみると、同級生はみんな打ち解けやすく、先輩方もいい人ばかりで、そういった不安はすぐに解消されました。特にこうした関係を築いていくきっかけとなったのは新歓合宿だったと思います。まだ話したことのない人とも仲良くなれたし、たくさんの先輩の話を聞くことができました。とくに旭医は部活動が盛んであり、どこの部活も熱いため、興味のなかった部活でも話を聞くととても魅力的に感じられ、入りたくなってしまいました。部活は実際入ってみるとただ楽しいだけではありませんでした。部活は1～6年と幅広い学年の人とつ

ながりがもて、かつ礼儀なども身につくので、社会との橋渡しとなっています。

生活に慣れてきたころには早期体験実習がありました。早期体験実習では医療施設や福祉施設に赴き、医療の現場を自分の目で見、お手伝いをさせていただきました。医学部でも特に医学科は一般教養科目がほとんどなので、現場の医療や、自分の将来について考えることはあまりありませんでした。この体験実習を通して現場のやりがいだけでなく、厳しさや現状も知ることができ、自分の医療に対する姿勢などを考える大きなきっかけとなりました。

旭医は単科大学であり、決して大きな大学ではありません。しかし、同級生みんなが一緒に同じ教室で同じ講義を受けることで自然と仲良くなるし、一体感も生まれます。今後6年間いろいろつらいこともあると思いますが、学年全体で支えあって旭医での大学生活を日一杯楽しみたいと思います。

## 旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 角田 みなと



私が旭川医科大学に入学して三ヶ月ほどの時間が経ちました。入学時の不安はもうどこに行ってしまったのか、毎日勉強と部活で充実した時間を過ごしています。ここで私はいろいろな人に出会い、刺激されています。医学科と看護学科で学問は

異なりますが、医療を目指している人々が集まる場所で、私の学びたいことに取り組むことができるのはとても楽しく、意欲を高めてくれます。また、様々な個性をもっている方がいて、出会う方一人ひとりが新鮮です。

初めての授業では、様々な分野の先生方が私たちに期待することを話してくださいました。それから私は、看護学生としての自分と、ここで学ぶすべてのことが医療につながっていることを意識しています。その意識は、早期体験実習や新歓実習で具体的な体験に結びつきました。いち早く、実習でしかわからない現場の実際の様子を少しでも感じる事ができたことで、もっと視野を広げて学んでいくこと

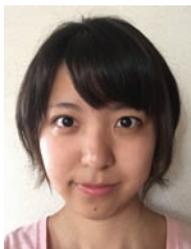
の大切さを考えました。これから徐々に増えていく技術の授業や、実習への心構えが改められたことは看護学生としての私にとって大きな前進だったと思います。

部活では、私は今まで経験したことのないことに挑戦したいと思い、居合道部に所属しました。加えて、自然が好きなので、山岳部では旭川の美しい山々を楽しんでいます。部活の雰囲気はいつも暖かく、初心者でも何度も丁寧に教えてくれます。私は旭川医科大学の学生の、部活への真剣な気持ちが好きです。看護学科は実習などで忙しくなることも少なくないと思いますが、部活動とのメリハリをつけて取り組んでいきたいと思っています。

ここでは、自分が人としても成長していけると感じています。そして、初めて旭川医科大学に来た時とは違う胸の高鳴りを感じています。これからも、多くのことに興味を持って、様々な人と影響し合いながら良き看護師とは何かを考え、それを真剣に目指していきたいと思っています。

## 旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 菅原 愛海



大学生になって初めての夏休みを迎え、改めて旭川医大に入学できて良かったと感じています。振り返ると入学式、部活動、実習、学校祭と慌ただしく過ぎていきましたがどれも本当に充実していました。

入学前は、新たな生活の始まりに不安と悩みがありました。しかし、地元であること、高校の友達と一緒に入学できたこと、入試会場で出会った子と入学式で再会できた喜びもあり、あまり不安なく入学する事ができました。入学して驚いたことはまず、学習についてです。まだ大学生活に慣れない時期から「看護」という専門的なことについて学び、戸惑いばかりでした。答えをさがすのではなく、自ら考えることが多くなりました。予習やレポートなどの課題の量も高校とは比にならず、不規則な生活が続くこともありましたが、これが確実に看護師として社会に出ていくための準備になっているのだと実感しています。

また、人とのつながりが増え、毎日楽しく過ごしています。学科内の関わりだけでなく、食堂など大学内で先輩方とも深く関わることは規模の大きい総合大学ではできず、それは旭川医大の魅力であると感じています。部活動でも学習面でも先輩方の姿を見ていつも刺激を受けており、多くのことを教わっています。

これからの大学生活では、さらに苦しいことも、悩むこともあると思いますが、一つひとつ考え、友人と助けあいながら乗り越えていこうと思います。また、様々な新しいことにチャレンジし、楽しむときは楽しみ、頑張るときは手を抜かないで徹底するといった、メリハリのある生活を送っていきたいです。まだ分からないことばかりですがこれから多くのことを経験して視野を広げ、自分の理想の看護師像を明確にし、ここに入学できたことの周囲への感謝を忘れず、後悔の少ない大学生活にしていきたいと思っています。

## 平成27年度入学式を挙行了しました

平成27年度入学式が4月6日（月）10時30分から本学体育館において行われ、新入生やご家族の方々など、本学関係者を含め約500名が参加しました。

式では、医学科112名、看護学科60名、併せて172名の名前が一人ずつ読み上げられ、学長から入学が許可されました。

吉田学長からの式辞に引き続き、新入生を代表して医学科 安達 正紘さんが宣誓を行い、医学生・看護学生としての自覚を新たに、旭川医科大学生としての新たなスタートを切りました。



▲学長式辞



▲入学式の様子



▲宣誓



▲宣誓

## 医学科入学式 集合写真



## 看護学科入学式 集合写真



## 平成27年度医学科・看護学科新入生合同研修会が実施されました

平成27年度医学科・看護学科新入生合同研修会が4月7日（火）8日（水）の二日間にわたり実施されました。

一日目は、まず看護学科棟大講義室に集合し、教育・学生担当学長補佐（現 機能強化担当学長補佐）の千石一雄教授、医学科第1学年担当教員の三好暢博教授、看護学科第1学年担当教員の升田由美子教授からそれぞれご挨拶があり、オリエンテーションが行われました。その後、「旭川医科大学が重視する地域医療について」と題した全体ガイダンスが地域医療教育学講座 野津司准教授により行われ、先生ご自身の体験談を交えながらの北海道の地域医療に関するお話に、新入生たちは熱心に耳を傾けていました。

その後、医学科、看護学科に分かれたガイダンスがあり、医学科では「最近の医師はどのように育てられているか？」と題したガイダンスが教育センター副センター長 蒔田芳男教授及び生理学講座（神経機能分野）柏柳誠教授により行われました。そして、看護学科では看護学講座 岡田洋子教授、藤井智子教授、伊藤幸子教授による『「学び方」を学ぶ』と題したガイダンスが行われました。

午後からはグループ毎に分かれて、救急医学講座 藤田智教授と名寄市立病院 山巻多先生のご指導のもと、心臓マッサージなどの救急蘇生実習を行いました。各グループには、研修医や看護学講座の先生方、本院の看護師の方々にもついていただき、1人ずつ心肺蘇生キット「あっぱくん」を使用しながら、心肺蘇生の知識・技術を学びました。

一方、旭川ろうあ協会の講師による手話の講習では、「おはよう」「こんばんは」などの簡単な挨拶か

ら始まり、医療現場で役立つ表現などを教えていただきました。最後には、旭川消費者協会から「消費者問題—トラブルとその対処方法—」を学び、一日目が終了しました。

二日目は、メンタルヘルス担当学長補佐の千葉茂教授から、「睡眠からみたメンタルヘルス」と題した講演が行われ、睡眠の重要性についてお話しいただきました。講演後も、新入生から積極的な質問がなされ、予定時刻を超えての終了となりました。引き続き、「大学生として身に付けたいマナー」と題して、株式会社アムリプラザの前田解子講師による講演が行われ、大学生として身に付けるべきマナーについて学びました。

午後からは、保健管理センターの川村祐一郎教授と藤尾美登世保健師による「健康な学生生活を送るには一ほけかんとどう付き合うか」と題した学生生活における注意と保健管理センターの利用方法の説明が行われました。次いで、NHK旭川放送局と学生自主組織「はしっくす」の共同企画である「旭川・道北の魅力プレゼンテーション」が行われ、旭川市内及び近郊のおすすめスポットの紹介がありました。続いて、内科学講座（循環・呼吸・神経病態内科学分野）長谷部直幸教授による「医学生らしい生活習慣のススメ」と題した講演があり、引き続き、内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野）澤田康司助教による「お酒 正しいつきあい方と命を守る正しい対応方法」では、相次ぐ大学生による飲酒事項を防ぐための知識を学びました。二日間ではありましたが、内容の濃い有意義な研修会となりました。



▲救急蘇生実習



▲千葉学長補佐による講演



▲アルコールパッチテスト

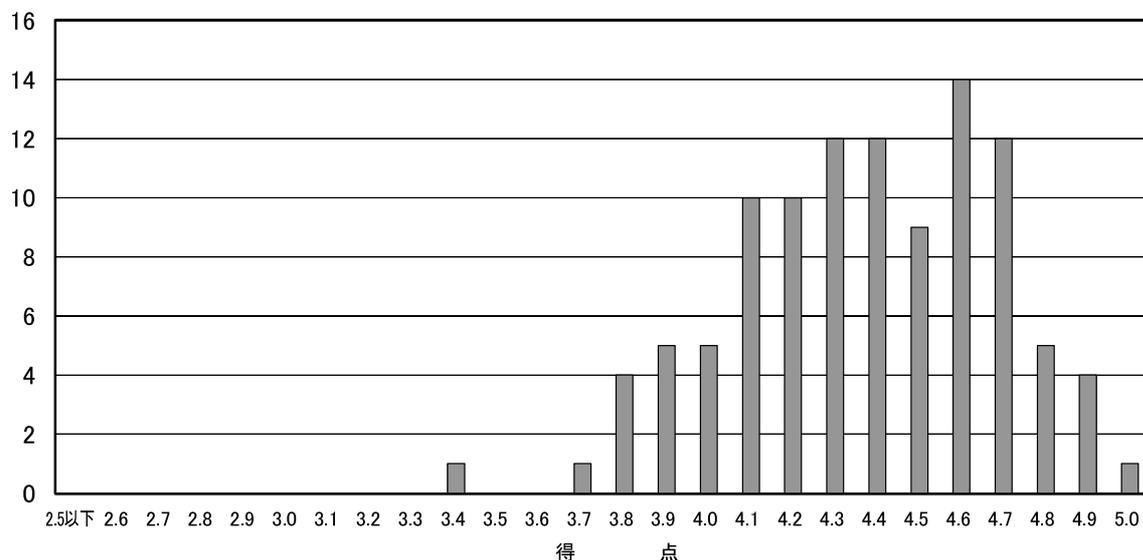


▲マナー講習

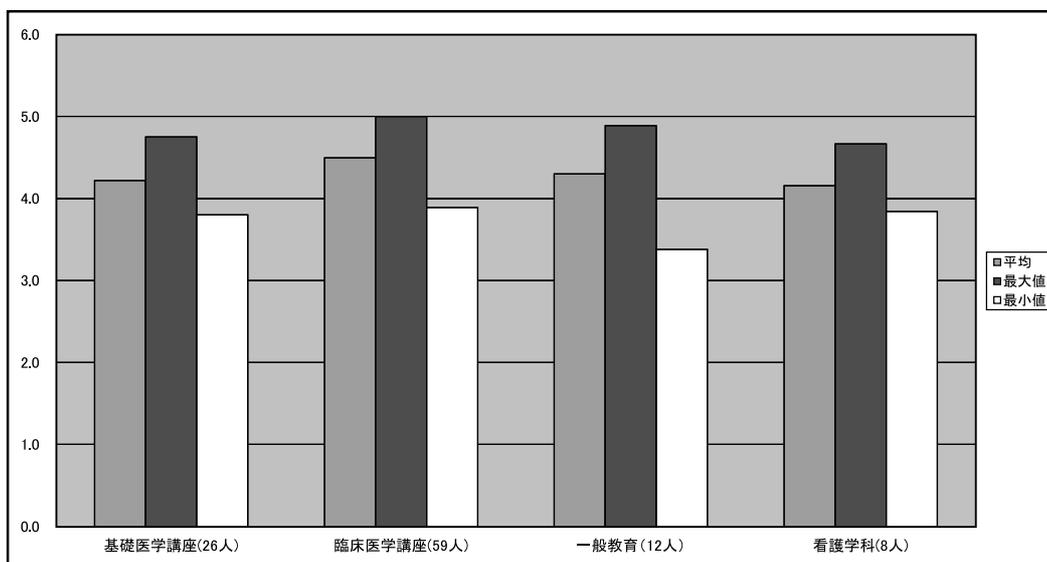
## 平成26年度後期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得										点															
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4	5	5	10	10	12	12	9	14	12	5	4	1

(実施人数105名 平均4.4)



### 部局別教員の平均点と最高・最低点



### 講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

## 科目全体の講義企画に対する学生評価

あなたの履修態度について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
目的の達成	問5 科目全体の到達目標を最終的に達成することができましたか。
科目内容	問6 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。 問7 科目を履修することで、今後の学習意欲は増しましたか。
総合評価	問8 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）  
 ④ やや思う（良い）  
 ③ どちらとも言えない（普通）  
 ② あまりそう思わない（あまり良くない）  
 ① 全くそう思わない（良くない）

科目名：看護化学（看護学科第1学年前期／必修）  
 履修者数：61 配付数：50 回収数：45 回収率：90.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.2	3.6	2.6	2.9	2.5	2.6	2.8

**\*評価に対するコメント**

看護化学 担当教員

今年の学年の特徴について気づいた点を列記します。

- ・講義で提示された“言葉”を単純に記憶すればよいと誤解している。
- ・新しい概念や論理、抽象化を理解すべきであることに気づいていない。
- ・積極的に勉強しようとせず、分からないことを質問することもなく放っておく。
- ・現状認識が甘い（なんとかなるなどと根拠のないイメージを抱いている）。

以上は、学年担当として入学式の翌日に皆さんに注意しましたし、講義でも言いました。しかし化学教室に質問に来た学生は少数でした。大学の勉強は高校までの勉強とは根本的に違うということと、皆さんは他の学部よりもやや忙しいスケジュールで勉強しなければいけないということを改めて認識して、これからの科目に備えて欲しいと思います。

科目名：生体調節医学（医学科第3学年後期／必修）  
 履修者数：107 配付数：107 回収数：37 回収率：34.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.5	4.3	3.4	4.1	4.3	4.5	4.4

**\*評価に対するコメント**

生体調節医学 担当教員

生体調節医学は、糖尿病、内分泌、腎泌尿器疾患に関して、第一内科、第二内科、泌尿器科、小児科、耳鼻咽喉科の各所属教員により開講されている。

科目全体としての満足度に関しては、昨年度の4.0点から4.4点、また内容が今後の学習意欲を増すものだったかの問いについては、4.0点から4.5点と、復習・宿題に関する自己評価点数3.4点（昨年度4.0）以外は、前年度より評価点は高い。

科目名：精神看護学Ⅰ（看護学科第2学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：58 回収数：30 回収率：51.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.7	4.7	3.9	4.0	3.7	3.9	3.3	3.6

**\*評価に対するコメント**

精神看護学Ⅰ 担当教員

精神看護学Ⅰでは、心のケアの重要性を認識し、精神の健康の保持増進、心の発達、精神状態に影響を受けた個人の生活行動、人間関係、また、看護全般に活用しうる精神看護学の知識や技術について学んでいます。心のケアを行う看護師として、自己の傾向を知る大切さも学んでいます。精神看護学Ⅱと合わせて学習を重ね、次年度の精神看護学演習に繋げていきましょう。

科目名：健康弱者のための医学（医学科第4学年前期／必修）  
履修者数：122 配付数：93 回収数：47 回収率：50.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.3	4.0	3.6	3.8	3.9	3.8	3.8

**\*評価に対するコメント**

健康弱者のための医学 担当教員

「健康弱者のための医学」は、今年が開講三年目になる。昨年度の指摘を受け、内容に進行に変更を加えた。本講義の内容は、日本では珍しい講義となるが、世界医学教育連盟（WFME）が示す医学教育グローバルスタンダードに合致する講義である。しかしながら適切な教科書がないという指摘もあり、この講義から日本初の教科書を作れるよう体制を構築したいと考えている。

科目名：生体防御医学（医学科第3学年後期／必修）  
履修者数：107 配付数：107 回収数：32 回収率：29.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.3	3.9	3.1	3.7	3.9	4.0	4.0

**\*評価に対するコメント**

生体防御医学 担当教員

各評価項目を分析すると、出席率が高かったことは良い点でしたが、予習・復習をしてきた学生が少ない点は問題と思われました。履修範囲が広く、学習が大変だという意見も出ていました。講義内容の理解を深めるためには、講義前に予習すること、基礎的内容を理解しておくこと、講義後に復習することなどが重要です。

講義が素通りで終わらず、有意義な時間となるよう、さらに学習意欲を高めてほしいと思います。

科目名：対人関係論（看護学科第1学年後期／必修）  
履修者数：61 配付数：54 回収数：52 回収率：96.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.7	4.0	4.1	3.8	3.9	3.7	3.9

**\*評価に対するコメント**

対人関係論 担当教員

人間関係というものは、空気と水のように人間生活には不可欠なごく日常的な現象であり、感覚的レベルでも理解が可能ですが、突き詰めて考えると奥深いものがあります。講義で学んだことを、あらゆるところで活かしつつ、自身のコミュニケーション能力の向上に取り組んで下さい。

科目名：臨床疫学（医学科第4学年後期／必修）  
履修者数：122 配付数：122 回収数：19 回収率：15.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.8	4.2	3.6	3.9	3.6	3.6	3.9

**\*評価に対するコメント**

臨床疫学 担当教員

臨床疫学では、講義に加えてSPSSによる演習と論文の批判的吟味であるcritical reading, のレポート提出を課しています。特に後者は、正解のない中で様々な情報を調べながら判断していくことになり、臨床で論文を正しく理解するのに役立つと考えています。ぜひ、今回の勉強を発展させて、臨床疫学について生涯学習に励んでください。

科目名：臨床検査学（医学科第4学年後期／必修）  
履修者数：122 配付数：118 回収数：53 回収率：44.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.7	4.3	3.9	3.5	3.9	3.9	3.8	3.9

**\*評価に対するコメント**

臨床検査学 担当教員

総合評価は昨年問14は4.1で今年問8は3.9と0.2低下しました。また科目の内容では昨年問5-13、今年問6-7に関し3.8-3.9前後をいただき昨年と同様でした。学生から検査機器を扱ってみたいとコメントもありました。今後問6で示される学生の満足度と問7で示される意欲をすこしでもあげるために、機械の写真や測定技術を講義にすこしでも取り入れたいと思います。また、R-CPCも積極的に行って臨床実習や研修の実践的な助けになるよう努力します。

科目名：医療安全（医学科第4学年後期／必修）  
履修者数：122 配付数：119 回収数：86 回収率：72.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.2	3.8	3.3	3.7	3.9	3.7	3.8

**\*評価に対するコメント**

医療安全 担当教員

3年目の医療安全では、担当教員の変更や臨床実習序論との連携などがあったため、内容が一部変更になりました。そんな中でも学生の皆さんは、しっかりと学んでいたようです。皆さんの意見の中にあつた、レポートやグループワークを増やしてほしいという意見は、前向きに考えていきたいと思っています。ただ同じ時期に開講されている講義でのレポートなどの分量を考えて、バランスを取りたいと考えています。

科目名：症候別・課題別講義（医学科第4学年通年／必修）  
履修者数：123 配付数：121 回収数：85 回収率：70.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.1	3.9	3.2	3.7	3.7	3.9	4.0

**\*評価に対するコメント**

症候別・課題別講義 担当教員

症候別・課題別講義は、旭川医大の臨床講義の3層構造の2層目に相当します。一層目が疾患別の系統講義、二層目が本講義、3層目が医学チュートリアルにつながります。昨年度、講義の展開の関係で後期に配分が大きくバランスを欠いているとの指摘を受けました。今年は4：6程度の配分比となるように時間割上の配慮を行いました。

科目名：医療情報学（医学科第4学年後期／必修）  
履修者数：122 配付数：120 回収数：55 回収率：45.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.3	4.0	3.6	3.9	4.0	3.8	3.9

**\*評価に対するコメント**

医療情報学 担当教員

本講義は、1) 医療情報に関する基礎理論、2) 医療情報管理、3) 医療経済、4) 医療情報の社会医学への応用の4つのテーマで構成されている。これらはいずれも医療人として習得しておきたい領域である。しかし、電子カルテや医療経済については、臨床実習前であるためか、理解しにくいとする意見があった。また、本講義全体として内容が臨床医学からやや離れていて、学習意欲を増すものであるかという点に関しては評価がやや低いようであった。学生諸君が理解しやすく、学習意欲を増すような講義内容にするようさらに検討したい。

科目名：医療概論4（医学科第4年後期／必修）  
履修者数：122 配付数：122 回収数：91 回収率：74.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.3	4.0	3.2	3.7	3.7	3.7	3.8

**\*評価に対するコメント**

医療概論4 担当教員

医療概論Ⅳでは系統別講義から漏れてしまう部分のカバーを目的とし、救急医療を社会的側面と臨床的側面から考えることを目指して開講しております。昨年度カリキュラムに対しての疑問点が指摘され、内容の検討を行いました。依然として系統講義との差別化がはっきりしていないなどの意見がみられました。新カリキュラムへの移行時期でもあり、現時点ではこれ以上の大きな手直しは厳しいとの判断から、本科目は新年度もあまり大きな変更はせずに継続していく予定です。

科目名：臨床薬剤・薬理・治療学（医学科第4学年通年／必修）  
履修者数：122 配付数：122 回収数：49 回収率：40.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.0	3.7	3.1	3.1	2.7	3.2	3.0

**\*評価に対するコメント**

臨床薬剤・薬理・治療学 担当教員

生評価の各アンケート結果は、概ね「3」を上回る評点を獲得したが、問6の科目全体の難易度に関しては平均をやや下回る結果となった。授業プリントは、一部の資料を最新のものに更新し、また最近の医師国家試験の出題問題に対応するように新しい内容を加えたため、授業や試験を難しいと評価する結果になったと考えられるが、薬物療法が高度になっていることから、理解しやすい授業となるよう配慮していきたい。

科目名：地域看護学（看護学科第1学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：57 回収数：45 回収率：78.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.5	3.9	3.3	3.8	4.0	4.2	4.1

**\*評価に対するコメント**

地域看護学 担当教員

地域看護学は24年度カリキュラムによる新規の科目で、地域社会における人々の生活・暮らしを基盤にした看護について看護師・保健師・助産師の看護職などがこぞって協力し合い人々の健康やQOLの向上をめざした活動であることを理解し、このことを説明できるようになることを目的としています。様々な角度から看護の理解が深められるように期待し授業方法を工夫しています。学生の皆さんから看護の概念が大きく広がったなどという声が聞かれ、これからも看護の奥深さ、醍醐味を皆さんと一緒に考えていきたいものです。

科目名：糖尿病・内分泌Up-Dateコース（医学科第3・4年後期／選択必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：19 回収率：17.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.1	3.7	3.1	3.8	4.1	4.1	4.3

**\*評価に対するコメント**

糖尿病・内分泌Up-Dateコース 担当教員

「糖尿病・糖尿病・内分泌Up-Dateコース」は、糖尿病・内分泌疾患に関連した最新の医学知識を、解剖学、生化学、薬理学、内科学、小児科学、産婦人科学、泌尿器科学、整形外科学、眼科学、臨床検査医学の多角的視点から、学習することを目的としている。事前の予習・復習についての自己評価、また科目内容及び満足度についても例年通り、4点以上と一定の評価は得られている。

科目名：臨床遺伝学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：14 配付数：14 回収数：13 回収率：92.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.8	4.9	4.5	3.5	4.3	4.3	4.4	4.6

**\*評価に対するコメント**

臨床遺伝学コース 担当教員

今年度は、ロールプレイ課題を4課題から5課題に増やしロールプレイセッションを増加させました。講義はできるだけ少なくしており、情報の収集、伝達の方法について、患者さんの立場と医師の立場を経験できるようになっています。ロールプレイなどのセッションは、医療面接での結果の説明から、最終的に患者さんに遺伝情報について伝える場合の問題点の討議するものと、それ以外には、家系図の書き方や遺伝情報の調べ方などの演習を組み合わせております。今年度も4.6点を頂くことが出来、満足度の高いものになっていると考えております。

科目名：救急・プライマリーケアコース（医科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：20 配付数：20 回収数：16 回収率：80.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.8	4.8	4.7	4.8	4.9	4.9	4.9

**\*評価に対するコメント**

救急・プライマリーケアコース 担当教員

本コースは、少人数で、できるだけプラクティカルな講義と、参加者自身が自分で考える機会を設けることを主旨として行っております。例年希望者が多く20名限定ということで設定し、履修内容も見直しをした結果、今年度も非常に高い評価を頂きました。

今後も、救急医療におけるプライマリーケアの基礎知識と実際を学ぶことを主眼に構成し、より中身の濃いものにしていきたいと考えております。

科目名：感覚器医学の最先端コース（医科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：63 配付数：53 回収数：16 回収率：30.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.7	4.0	3.1	3.8	3.7	4.0	4.0

**\*評価に対するコメント**

感覚器医学の最先端コース 担当教員

「感覚器医学の最先端コース」

麻酔科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、第一解剖、脳機能医工、第二生および眼科が現在行っている最先端の研究やそれぞれの分野のトピックスを盛り込んだ講義ということで、問2の結果（評価4.7）が示すように、本教科に対する学生の関心度は非常に高いものであった。

ただし、回収率が30.8%と低い。今後は学生全体の声を汲み取り、本教科の更なる質を向上のためにも、学生評価の回収率の増加が必要であると思われる。

科目名：看護理論（看護学科第2・編入第3学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：56 回収数：43 回収率：76.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.9	4.7	4.2	3.9	3.5	3.5	3.7	4.0

**\*評価に対するコメント**

看護理論 担当教員

膨大な量の事前学習と班ごとに担当理論のプレゼンテーションを課しました。良く準備し、授業に臨んでいたと思います。自分で予習をすることでプレゼンの理解も深まるという感想が多くありました。学んだ看護理論を今後の看護実践に活用し、より看護を対象者に提供してください。

科目名：EBM・CPCコース（医科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：4 配付数：4 回収数：4 回収率：100%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.8	4.5	5.0	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0

**\*評価に対するコメント**

EBM・CPCコース 担当教員

開講し10回目を迎えた。前半をEBMコース、後半をCPCコースで構成し、即臨床実習・研修で役立つ生きた知識・考え方を習得出来るよう心がけた。本年度の選択者は4名と少数であったが皆学習意欲が強く、個々の学生へ対応を密に行うことが出来、各自が積極的に取り組み順調に進んだ印象である。CPCコースでは、実際の病理解剖症例を体験学習しCPCレポートの作成およびプレゼンを行った。卒後臨床研修でのCPCレポート作成に役立つ体験だったと考える。総合評価は少人数のためもあり5点満点で満足できるものであり、来年以降も同様な構成でコースを進める。

科目名：漢方医学コース（医科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：72 配付数：58 回収数：34 回収率：58.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.4	4.2	3.6	4.0	4.1	4.2	4.3

**\*評価に対するコメント**

漢方医学コース 担当教員

漢方医学コースが新設されて、4年目となりました。このコースは講義に先だって、学生さんにアンケートに協力してもらうことで、「学生のニーズに応えた講義」を志向しています。漢方入門者の理解を容易にすることを目標に、古典を省き、できるだけ臨床に則した15コマの講義で構成しています。今年度は99名という多数の受講希望者があり、抽選の結果、3・4学年の72名の受講となりました。講義に対する皆さんの評価はおおむね好評で、レポートも素晴らしいものが多くみられ、医学知識の提供にとどまることなく、共に学ぶことの大切さを実感しました。このコースを履修した学生さんが、今回初めて研修医となります。毎年伝えている「バイリンガルの様に西洋薬と東洋薬を使いこなす医師」になってほしいという私どもの思いが実臨床の場面で花開くことを願ってやみません。コーディネーターの間宮は今回信州大学に転勤となりましたが、今後もこのコースは継続される予定です。旭川に漢方の芽が育っていくことを期待しています。

科目名：全人的医療・緩和ケアコース（医科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：24 配付数：24 回収数：17 回収率：70.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.2	4.8	3.4	4.6	4.8	4.6	4.7

**\*評価に対するコメント**

全人的医療・緩和ケアコース 担当教員

本コースは、緩和ケアをテーマにして、学生自身が医師に必要な基本姿勢、プロフェッショナリズムを考えることを意図したコースです。知識の伝達を目的とせず、態度教育という位置づけで展開しています。今年も参加学生から高い評価をいただきました。最終評価はレポートで行っています。良い医師になるために今後自分が何を考え何をしていたらいいか、いまだ漠然とはありますが、それぞれのビジョンがレポートにあらわれていました。医療プロフェッショナリズム教育の一環として、今後も多くの学生に受講してもらいたいと思います。

科目名：臨床薬理学コース（医科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：47 配付数：47 回収数：40 回収率：85.1%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.1	4.0	3.4	4.0	4.1	4.2	4.1

**\*評価に対するコメント**

臨床薬理学コース 担当教員

臨床薬理学は、第2学年で学習した基礎薬理学の原理を臨床に応用する際に必須となる分野である。本コースでは、その理解のために、薬物の投与方法から薬物療法の問題点に至るまで、臨床の各分野で御活躍の先生方に、その専門分野の講義を行って頂いた。今後も各科の先生方に御協力頂き、さらに臨床薬理学の理解に寄与するコースにしていきたいと考えている。

科目名：生体構造機能蛋白・病態解析コース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：30 配付数：27 回収数：16 回収率：59.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.6	4.2	3.3	4.2	4.4	4.6	4.7

**\*評価に対するコメント**

生体構造機能蛋白・病態解析コース 担当教員

全体としての満足度（問8）の平均点は4.7であり、よい評価だったと思います。各評価項目をみると、出席率が高かったこと（評価平均4.6）、今後の学習意欲が増したこと（評価平均4.6）が良かった点でしたが、一方で、予習をしてきた学生（評価平均3.1）、復讐をした学生（評価平均3.3）は少なかったのが課題だと思います。以上の評価結果をふまえ、今後も学習意欲が増すような講義を心がけるように各先生にお願いするとともに、予習、復習を怠らないように学生に促していきたいと思っています。

科目名：ニューロサイエンスコース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：37 配付数：37 回収数：29 回収率：78.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.2	3.8	2.6	3.6	3.6	3.9	4.0

**\*評価に対するコメント**

ニューロサイエンスコース 担当教員

受講者数37名のうち29名（78.4%）から本コースに対する評価を戴いた。全体として4.0という評価を戴いたので、受講者は概ね満足しているものと判断した。しかし、講義企画に対しての積極的なコメントが1件（非常に少ない）であり、受講者にとって真に有意義である企画であったか否か疑問が残る。今後、本コースをより特色ある企画へと発展させる必要性を感じている。

科目名：臨床感染症学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修）

履修者数：85 配付数：84 回収数：73 回収率：86.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.0	3.9	3.1	3.7	4.0	3.9	4.1

**\*評価に対するコメント**

臨床感染症学コース 担当教員

本コースの平成26年度の受講学生は、第3、4学年合計で85名でした。数年前からカリキュラムが15コマの選択必修に改正され、感染症対策総論と、現在特に問題となっている感染症に的を絞ったコンパクトなコースとして開講しています。しかも、それらの学習をした後、国試の過去問題及び分担講師の新作問題による期末試験を行い、国家試験やCBTに備えた、学習ができるように配慮したカリキュラムになっています。本年も、出席点数を併せた総合点で評価し、多くの受講学生が高成績を挙げました。授業評価は、昨年度に比べて、全体評価は4.1に上昇しました。コメントには「面白い授業だった」などの記載が多く見られました。臨床感染症に対する基盤構築は、国家試験やCBTに役立つばかりか、医師にとって欠くべからざる必須課題になっています。今後も、多くの学生諸君がこのコースを受講し、微生物学を基盤とする感染症のより深い理解をしていただけることを期待します。

科目名：英語ⅡA（看護学科第2学年通年／必修）  
履修者数：60 配付数：55 回収数：54 回収率：98.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.4	3.9	3.6	3.7	3.6	3.5	3.8

**\*評価に対するコメント**

英語ⅡA 担当教員

英語ⅡAは、看護科第2学年の学生が履修する科目です。ガイダンスで行ったアンケート調査結果より、英語力に個人差があるばかりでなく、英語を苦手と感じている学生もかなりの割合をしていますが、しっかり課題に取り組んでくれたという印象を持っています。

科目名：英語ⅡB（看護学科第2学年通年／必修）  
履修者数：60 配付数：53 回収数：41 回収率：77.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.5	3.9	3.5	3.7	3.7	3.5	3.8

**\*評価に対するコメント**

英語ⅡB 担当教員

When you have finished Nursing English 2, you will be halfway to your goal of becoming a Registered Nurse. This is a very fine goal, because nursing is a noble profession. When you become a nurse, people will know that you are intelligent, reliable, trustworthy, hardworking, kind and strong. Those are the qualities that nurses possess.

I hope that in nursing you will find a lifelong profession that will give you great satisfaction, and an opportunity to do something that matters every day.

科目名：精神看護学Ⅱ（看護学科第2学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：54 回収数：38 回収率：70.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.3	3.9	3.5	3.7	4.0	4.2	4.2

**\*評価に対するコメント**

精神看護学Ⅱ 担当教員

精神看護学Ⅱは主として精神看護の技術や方法について学ぶことが大きな目的です。コミュニケーションのとり方、対象の健康ニーズの読み取り、判断などに基づいた看護を提供できるよう目指します。こころの健康や精神疾患の回復、社会復帰に果たす看護の役割は、ますます増大しており、講義において得た知識を活用されることを願っています。

科目名：看護倫理（看護学科第2学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：56 回収数：46 回収率：82.1%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.8	4.3	3.8	3.7	3.7	4.0	4.2

**\*評価に対するコメント**

看護倫理 担当教員

看護倫理は看護実践を行う際の基盤となるものであり、自らの行動を決定する指針となるものです。事例を用いて、行われている看護について真摯に考え、自らの意見を述べられていました。日常生活においても倫理的なものの見方や判断を意識し、看護観を醸成してください。

科目名：英語 I A（看護学科第 1 学年通年／必修）  
履修者数：60 配付数：55 回収数：55 回収率：100%

**\*評価結果（平均）**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
3.0	4.3	3.8	3.6	3.4	3.4	3.2	3.3

**\*評価に対するコメント**

英語 I A 担当教員

問 2・3・4の結果から、多くの学生が授業に出席して授業内容を理解すべく努力してくれていたことがわかりました。一方で、問 7・8の学生評価があまり高くないことから、学生の学習意欲を増進させてより高い満足度を学生に与えられるように、授業内容や講義の手法を改善していく必要があると感じました。

科目名：英語 I B（看護学科第 1 学年通年／必修）  
履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100%

**\*評価結果（平均）**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
2.6	4.3	4.0	3.0	3.6	3.8	3.6	3.9

**\*評価に対するコメント**

英語 I B 担当教員

This year's students were very good. I was pleased to see a lot of enthusiasm in the class. Everyone made a real effort to speak English. It's important to use English if you want to learn it. It's important to use every opportunity you have to speak and listen to English. In the future, I hope everyone has a chance to use the English you have learned.

科目名：基礎生物学（医学科第 1 学年通年／必修）  
履修者数：115 配付数：115 回収数：107 回収率：93.0%

**\*評価結果（平均）**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
3.1	4.3	4.0	3.1	3.8	3.8	4.0	4.3

**\*評価に対するコメント**

基礎生物学 担当教員

総合ポイント4.3では満足という評価でした。自由記載欄に、有意義な講義であったとか、質問対応が丁寧だったなど、感謝の言葉が述べられているものが複数あり、教員として大変嬉しく思っております。この科目の学習主題はヒトの生物学であり、分子・細胞から個体に至るまでの様々な階層で起きている生命現象について先端的内容にも触れながら学習します。コメントの中には、用語の英語表記を書いてほしい、講義資料にメモ欄を設けてほしいなどの要望もあり、この講義を通して学習意欲が増している表れと受け止めています。医学に関連する生物学・生命科学の分野は日進月歩です。教員も常に新しい情報に目を向けながら、これからも理解しやすい講義にするよう努めてまいります。

科目名：臨床心理学（看護学科第 1 学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：52 回収数：51 回収率：98.1%

**\*評価結果（平均）**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
2.5	4.0	3.7	3.2	3.5	3.9	4.0	4.0

**\*評価に対するコメント**

臨床心理学 担当教員

臨床心理学では、学生の満足度の評価点が4.0点と高く、自由記載もわかりやすく楽しかったと、興味・関心を持って講義に取り組んでいたと思います。しかし、複数回欠席する学生があり、コーディネーターから担任に依頼して何度も注意を促すことがあったことは残念です。

科目名：医学英語ⅠA（医学科第1学年通年／必修）  
履修者数：113 配付数：109 回収数：107 回収率：98.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.0	4.3	3.5	4.0	4.1	4.1	4.2

**\*評価に対するコメント**

医学英語ⅠA 担当教員

医学英語の基礎力を養成するのがこの授業の意図でした。入試経路の多様化しているにもかかわらず、優秀な学年でした。

期待しています。来年度も頑張ってください。

科目名：医学英語ⅠB（医学科第1学年通年／必修）  
履修者数：115 配付数：114 回収数：112 回収率：98.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	3.9	4.2	3.2	3.9	4.1	4.1	4.3

**\*評価に対するコメント**

医学英語ⅠB 担当教員

You have finished your first year in medical school: congratulations!  
Although the road seems long, it will go by quickly. English is not the core of medical studies, but it is certain that English will be very useful to you in the future, not only to help you communicate with non-Japanese patients, but to keep you in touch with colleagues and medical developments through out the world.  
In a few years when you become a doctor, I hope that at the end of each day, you will feel that you have done some good in the world.  
Good luck, and keep healthy!

This year's students worked hard and performed very well at the tasks given to them. The most important aspect of this class was to learn to use English to communicate. The students showed no hesitation in exchanging information and learning to discuss the topics in the textbook. "You only get out of it what you put into it," is true for most things, but it is especially true when it comes to learning to speak English.  
For future students, I would like you to realize a language cannot be learned simply by being in the classroom. You have to experience it, use it, and practice it. You should never be afraid to make mistakes. In fact, making mistakes and then understanding your mistakes is the second best way to learn. The best way is to try to enjoy learning. If you attempt to have fun with English, you'll learn much faster.

科目名：医学英語ⅡA（医学科第2学年通年／必修）  
履修者数：128 配付数：96 回収数：68 回収率：70.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.4	4.3	3.3	3.9	3.9	4.0	4.2

**\*評価に対するコメント**

医学英語ⅡA 担当教員

医学英語の読解力を培うとともに、医学英語論文の構成に基づく読解ができるようになることを意図していました。学生のみなさんは、授業の意図を汲み、毎回の授業課題にしっかり取り組んでくれたという印象を持っています。入試経路の多様化を考慮し、課題の量を調整したため、少し物足りないといった印象を持った学生さんもいたようです。量と難易度の調整を工夫していくとともに、課題の質も向上させていきたいと思えます。

科目名：医学英語ⅡB（医学科第2学年通年／必修）  
履修者数：126 配付数：101 回収数：83 回収率：82.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.2	4.1	3.3	3.9	4.0	4.0	4.3

**\*評価に対するコメント**

医学英語ⅡB 担当教員

Second-year medical students have a first priority to learn what they need to know to become useful, confident medical professionals. Within that context, I try to offer students a chance to 1) improve their listening through anecdotes in everyday English, 2) practice their communication skills by making announcements or exchanging everyday news, and 3) practicing more focused skills required in medical situations.

It is my hope that students will enjoy our class, and also become more comfortable using English, not only so that they can be better able to treat English-speaking patients, but so that they can participate more fully in a world that needs their skills, ideas and experience.

科目名：基礎医学特論（医学科第2学年後期／必修）  
履修者数：137 配付数：121 回収数：64 回収率：52.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.4	3.9	3.1	3.8	4.0	4.0	4.1

**\*評価に対するコメント**

基礎医学特論 担当教員

昨年度から14回の講義に対して3つのレポートを出してもらおうことにしたが、ほとんどのレポートが2月の締め切り間際もしくは当日に提出された。講師の先生方に十分な時間を割いてレポートを評価していただくため、今年原則として講義終了後3週以内に提出するようにルールを変更した。学生から3週間は短すぎる、冬休みにゆっくり調べたい場合もある、などの意見があり、来年度は考慮したい。

科目名：医用物理学（医学科第1学年通年／必修）  
履修者数：115 付数：115 回収数：103 回収率：89.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.1	3.8	3.2	3.8	3.7	3.6	3.8

**\*評価に対するコメント**

医用物理学 担当教員

総合評価（問8）は3.8だった。昨年と同内容の講義（4前後の評価）にも関わらず、難易度の評価（問6）が、3.7に下がった。復習に関する評価（問4）が昨年より0.2低下した事と関係していると推測される。【復習不足→理解不足→難しいと錯覚】という構図で、問6、問8の評価へと影響したようだ。教員もより分かりやすい講義を心掛けるが、学生にもより一層の努力を期待したい。担当して頂いた先生には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

科目名：微生物学（医学科第2学年後期／必修）  
履修者数：141 配付数：138 回収数：95 回収率：68.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	3.8	3.7	3.0	3.4	3.1	3.7	3.6

**\*評価に対するコメント**

微生物学 担当教員

評価結果はいずれの項目も昨年とほぼ同様でした。難易度の評価については、微生物学が分子生物学と免疫学等を基本とする複合分野のために、内容が多岐にわたることで、難しく感じることからであろうと思われます。その対策として、講義では、どこがポイントで、どのように理解すればよいかについて教科書に沿って説明を行っています。しかしながら、出席、復習が自己評価で低いことで十分な理解につながらず、満足度が低くなったように思います。今後は達成目標をより一層明確化しますので、学生の皆さんは、講義に集中していただき、講義後の復習の徹底を期待します。

科目名：代謝栄養学（看護学科第1学年後期／必修）  
履修者数：61 配付数：57 回収数：57 回収率：100%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.0	3.6	3.0	3.4	3.6	3.6	3.7

**\*評価に対するコメント**

代謝栄養学 担当教員

評価の受け止め方はいつも難しい。例えば同じ講義であってもほとんど役に立たないつまらない講義であったという学生がいる一方で、非常に興味のある内容で面白かったという評価をする学生もいる。どちらも正しい評価なのであろうがおそらくその学生の科目に対する準備状況やバックグラウンドの知識の程度によるところが大きいと思われる。医学科と比べての看護の教科書のページ数の少なさは必ずしも内容の容易さを意味しない。原理はどの科目でも変わらず従ってその難易度は同じはずである。これを効率よくより少ない時間でこなすためには予習が必要でそれで分からない部分を質問することが重要である。教官はこれに対しては十分応える必要があり折にふれこの方向の学習を学生に促すことが重要であると考えている。

科目名：薬理学（看護学科第2学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：56 回収数：46 回収率：82.1%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.0	3.4	2.7	3.1	2.9	3.3	3.4

**\*評価に対するコメント**

薬理学 担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としている。様々な疾患に対する薬物を学習するため、その範囲は非常に多岐にわたる。短い時間内で講義するため、どうしてもすべてをかみ砕いて説明することができず、理解するのが大変だったかも知れない。よって是非、予習をしてから講義に望んで頂きたい。本講義が高学年での講義の理解の助けになれば幸いである。

科目名：感覚器病態医学（医学科第3学年後期／必修）  
履修者数：107 配付数：107 回収数：32 回収率：29.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	3.8	4.0	3.3	3.8	3.8	4.2	4.1

**\*評価に対するコメント**

感覚器病態医学 担当教員

感覚器病態医学は皮膚科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科および眼科の四講座で構成されている。問7、8の結果から各講座の講義内容に関しては満足が得られた。一方、本教科はそれぞれ独立した四講座が一括りとなっているため、学生にとっては広範囲の講義内容となり、試験の実施にあたっては四講座分が一枠の試験時間で行われた。そのため学生から「試験範囲が広すぎる」、「2教科ずつに分けて試験を行って欲しい」という意見が上がった。また、複数講座からの出題のため試験問題の形式が統一されていないという指摘もあった。今後、これらの課題について検討していきたい。

科目名：小児看護学（看護学科第2学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：58 回収数：48 回収率：82.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.5	4.0	3.3	3.6	3.6	3.7	3.8

**\*評価に対するコメント**

小児看護学 担当教員

学生の講義に対する評価は4.0前後であり、学生にとって概ね満足の得られる講義であったと考えます。しかし、問1「事前の予習をしたか」は2.9、問4「授業の復習・宿題を毎回したか」は3.3となり、授業の予習・復習への取り組みが極端に低い結果となりました。来年度の講義では、予習・復習を課題として取り入れ、学生の自己学習を支援する授業内容にしたいと思えます。

科目名：公衆衛生論（看護学科第2学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：60 回収数：53 回収率：88.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.1	3.5	3.2	3.4	3.6	3.4	3.5

**\*評価に対するコメント**

公衆衛生論 担当教員

講義に対する評価は平均的で、良くも悪くもない結果だと思います。学生の講義に対する態度は、一部を除き積極的に学ぼうとする学生が多く認められました。

反省点として、本年度は講義に対する戦略の設定が不十分で学生に迷惑をかけた点がありました。次年度は事前の予習などにも配慮するなど、学生が積極的に関ることが出来るよう講義の充実を図ります。

科目名：健康教育論（看護学科第1学年後期／必修）  
履修者数：58 配付数：58 回収数：55 回収率：94.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.2	3.6	3.1	3.5	3.6	3.4	3.3

**\*評価に対するコメント**

健康教育論 担当教員

主に健康行動モデルについての講義と、小冊子教材の改訂版を作るという提出課題で構成しました。要点を図解や表にまとめ空欄を設けたシートを作成・配付し、教科書をよく読んで空欄に書き込んでから、授業に臨むことを予習課題としました。期末試験では、43%の学生が8割以上（満点もあり）の高得点でして、予習・講義・復習の学習プロセスをきちんと実行した結果だと思います。ところが、31%が7割未満、その内4人はギリギリの低得点と、不可解な結果でした。

記載欄にあった提出課題については、その内容や提出期限変更についてプリントを追加して説明しました。また、さほど大きくない講義室なのでマイクは使わなかったが、最後尾の人に聞こえていることを確かめ、途中で聞こえなければ言っしてほしいと伝えてから授業しました。もし聞こえなかったのなら、その場で言ってくれば、言い直すかマイクを使うなど対処したでしょう。

科目名：成人看護学Ⅰ（看護学科第2学年通年／必修）  
履修者数：60 配付数：57 回収数：41 回収率：71.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.4	4.1	3.6	3.8	3.7	4.0	4.0

**\*評価に対するコメント**

成人看護学Ⅰ 担当教員

成人看護学Ⅰでは、学生の評価点のうち事前学習が3.4点と低いですが、他は3.6点から4.4点で、科目の満足度も4.0点となっています。通年科目の成人看護学Ⅰは、前後期の試験を行っていますが、範囲が広いので予習・復習が欠かせません。予習にあたる事前学習に関しては、事前に資料を配布することなど行いましたが、講義と関連した課題などを提示していこうと思います。復習に関してもやや低めですので確認できるような課題テストなど組み入れていきたいと思っています。

科目名：薬理学（医学科第2学年後期／必修）  
履修者数：137 配付数：126 回収数：112 回収率：88.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.0	3.7	3.0	3.2	3.2	3.6	3.6

**\*評価に対するコメント**

薬理学 担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としている。様々な疾患に対する薬物を学習するため、その範囲は非常に多岐にわたる。短い時間内で多くの内容を講義しているので、細かい説明が不足し、理解しにくいこともあったかもしれない。よって是非、予習をしてから講義に望んで頂きたい。本講義が、高学年での講義の理解の助けになれば幸いである。

科目名：母性看護学（看護学科第2学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：57 回収数：53 回収率：93.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.3	4.0	3.6	3.8	3.6	4.1	4.0

**\*評価に対するコメント**

母性看護学 担当教員

この科目の時間数は30時間で、学習範囲は女性の各ライフサイクルの健康、周産期の看護、新生児の看護と内容は多い。3年次から始まる母性看護学演習および実習は、この科目の学習内容を基に看護過程を展開するので、学生は主体的に自己学習し理解を深めておくことが前提となる。学生自身の履修態度の項目は過去3年間と比較し、ポイントに大差はない。それ以外の項目が全て低下していることをふまえ、学生の学習意欲を喚起する授業を目指したい。

科目名：感染免疫学（看護学科第1学年後期／必修）  
履修者数：61 配付数：55 回収数：53 回収率：96.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	3.7	3.2	2.9	2.8	2.3	3.0	2.9

**\*評価に対するコメント**

感染免疫学 担当教員

感染症は最もありふれた疾病であり看護の領域でもその予防を含め非常に重要な問題である。その科学的な理解は実践の場で日々生ずる問題の解決に対して大きな助けとなるものである。習得すべき知識や考え方は多岐にわたるが得られるものは大きい。必要最小限のことは教科書に書いてあり、講義ではそうなる根拠やさらに興味を引くような先端的な内容を紹介している。それをきっかけとしてさらに学習したり不明の部分を質問してくれることを期待しているが近年そういった学生は少なくなっているように感じる。以前は少なくとも試験前には質問に来る学生がいたがそれもなくなった。常に知的好奇心を持ち続けることを望む。プリント配布など来年度より改善すべきは対処する。

科目名：寄生虫学（医学科第2学年後期／必修）  
履修者数：137 配付数：136 回収数：121 回収率：89.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.3	3.8	3.0	3.6	3.8	3.9	4.0

**\*評価に対するコメント**

寄生虫学 担当教員

寄生虫はそれぞれ独自のライフサイクルを持ち、中間宿主、終宿主、媒介生物など多種にわたる生物がその存在に関係しているため、理解しづらい病原体です。そのため、文章のみでは説明しづらい箇所は、図などを多用し講義を行っています。「この科目は全体として満足できるものでしたか」の項目が4.0であったことから、この目的は十分に達せられたと考えます。今後も、学生の知識欲を高めるような講義にしたいと考えています。

科目名：腫瘍学1（医学科第3学年後期／必修）  
履修者数：107 配付数：107 回収数：99 回収率：92.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.4	3.9	3.1	3.7	3.9	3.9	4.0

**\*評価に対するコメント**

腫瘍学1 担当教員

学生からのコメントが多く寄せられ、腫瘍学について学ぶ良い機会となったとのポジティブな意見が多かったのはうれしいことであった。一方、データが講師によりばらばらであり、統一して欲しいとの意見も複数あった。来年度は本学講師陣が執筆した教科書が使えるため、さらに充実した科目になることが期待される。腫瘍学の試験では数年前から試験問題を回収している。残念なことに、今回の試験で、同時に配布した授業評価シートに問題を書き写し、シートを提出せずに持ち帰ろうとする学生が多くいることが判明した。試験のあり方を考えるべき時期に来ている。

科目名：機能形態基礎医学（医学科第2学年後期／必修）  
履修者数：143 配付数：143 回収数：119 回収率：83.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	3.8	3.9	3.2	3.4	3.2	3.7	3.7

**\*評価に対するコメント**

機能形態基礎医学 担当教員

講義に対する評価(問5～8)のポイント平均は3.5とやや低値であった。主因は、「問4、科目全体の難易度が適切だったか」に対し2または1の回答が119名中29名にのぼったことにある。自由記載欄には、試験が難しいという感想が目立った。よりわかりやすい講義を目指すとともに、出題のブラッシュアップなどを検討・実施する予定である。

科目名：形態機能学（看護学科第1学年通年／必修）  
履修者数：61 配付数：61 回収数：61 回収率：100%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.2	3.7	3.2	3.6	3.8	4.0	4.1

**\*評価に対するコメント**

形態機能学 担当教員

昨年より評価が低かった。教員は多忙であり、講義予定が少し前後したことが影響しているかもしれない。内容が豊富であるわりには授業時間が不足しているとの指摘が今回もみられた。学生にとっては濃密な講義内容を咀嚼するのに苦勞した面があったかもしれない。しかし、ご協力を頂いた先生方には短時間で集中的に指導して頂いた。ここに改めて感謝申し上げる。今後は、一層「分り易い」授業を展開することを後任に託したい。

科目名：遺伝学（医学科第1学年後期／必修）  
履修者数：115 配付数：115 回収数：107 回収率：93.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.2	3.9	3.4	3.9	3.9	4.0	4.1

**\*評価に対するコメント**

遺伝学 担当教員

総合評価点はほぼ昨年度と同じであった。各問にもほぼ同じような評価がなされた。それゆえ、科目全体の構成には大きな問題がないと考えられる。ただ、予習や復習の自己評価の間がやや低めであったことが、「学習意欲を増す有益が授業であったが、内容が難しく感じた」という学生コメントと関連していると推察される。日頃から積極的な学習態度を身につけるための創意・工夫によって、学生の学習意欲や理解度をさらに高めたい。

科目名：疾病論Ⅰ・Ⅱ（看護学科第2学年前期・後期／必修）  
履修者数：60 配付数：58 回収数：53 回収率：91.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.1	3.8	3.2	3.6	3.7	4.0	4.0

**\*評価に対するコメント**

疾病論Ⅰ・Ⅱ 担当教員

評価の受け止め方はいつも難しい。例えば同じ講義であってもほとんど役に立たないつまらない講義であったという学生がいる一方で、非常に興味のある内容で面白かったという評価をする学生もいる。どちらも正しい評価なのであろうがおそらくその学生の科目に対する準備状況やバックグラウンドの知識の程度によるところが大きいと思われる。疾病論はカバーする領域が広く講師は医学科の各科の多くの先生方が担当している。それぞれの得意分野を講義されており従って内容はレベルが高いと思われる。一方で担当教官がテーマ毎に異なることから全体としてのレベルの統一性に欠けていることは否めない。従って学んだことを基礎として自分で学習することで達成レベルを調整することが必要である。その際に教科書を活用し不明な部分は自ら尋ねることでそれへの支援は各教官から容易に得られる。学生諸君の評価の善し悪しの判断根拠に授業内容において重要点の指摘があるかないかが良く出てくるがこれは自分の学習の結果、各主題で何が重要なのか自身が判断するものであって他人に指摘されるべきものではないと思う。教科書で説明されていることについて何故そう言えるのか、理由をどんどん突き詰めて行って最終的に突き当たる部分が重要な部分なのではないか。考えるトレーニングこそ大学生には必要なのではないか。

## 実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）      ④ やや思う（良い）  
③ どちらとも言えない（普通）      ② あまりそう思わない（あまり良くない）  
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：看護研究Ⅱ（看護学科第3学年通年／必修）  
履修者数：62 配付数：62 回収数：33 回収率：53.2%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.6	4.1	3.5	3.0	2.8	2.8	2.5	2.7	2.8	2.3	2.3	2.4	2.6	2.3	2.7	2.8	2.7	2.3

### \*評価に対するコメント

看護研究Ⅱ 担当教員

看護研究は独立した科目ではなく、その学習過程では次の二つの内容・要素（能力）が必要と思います。①これまでに修得した看護に関する基礎知識や学習に取り組む姿勢（態度）と、②新たな学習への興味・関心、学ぶほどに難しく知らないことが多々あることに気づく、謙虚な学ぶ姿勢です。

暗記や即正解が得られるような学習内容ではなく、考えることに時間を要する学習だからこそ、大学で学ぶ意義があるのだと思いませんか？

科目名：実践看護技術学Ⅱ（看護学科第3学年通年／必修）  
履修者数：59 配付数：59 回収数：40 回収率：67.8%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.3	4.7	4.6	4.2	4.1	4.2	3.9	3.2	4.1	4.0	3.9	3.8	3.6	3.9	3.9	4.1	3.9	4.0

### \*評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅱ 担当教員

実践看護技術学Ⅱの構成は、前半が看護過程、後半が臨床の状況と似た場面での看護技術の試験でした。こうした構成であったこと、実践看護技術学Ⅰと事例を変えていたことで、実践看護技術学Ⅰと実践看護技術学Ⅱのつながりも見えにくかったようです。また多くの看護学科教員が担当したことで、教員間の指導が異なっていたという自由記載が見られ（評価も3.2点）、学生に混乱を与えていたため、27年度にはできるだけ改善する必要があります。また臨地看護学実習前に行った実技試験では、基本的な看護技術が習得できていない学生がみられ再試験を行うことになりました。しかし実技試験で良い看護援助をしていた学生もあり、フィードバックを返す時間が取れなかったことは残念でした。

科目名：統計学実習（医学科第1学年後期／必修）  
履修者数：112 配付数：112 回収数：100 回収率：89.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.1	4.7	4.4	3.9	4.1	4.0	4.1	3.7	4.2	4.2	4.0	3.7	3.7	3.7	3.8	4.2	4.2	4.0

**\*評価に対するコメント**

統計学実習 担当教員

評価全体では4前後が多く改善されたようにも思われますが、多くの個別の意見からはまだ十分な授業ではないと理解しております。A組とB組で評価の差が0.5以上の項目について述べます。問2（出席）では欠席者の人数では差がないのですが評価では差が見られます。問9、10、11、16、17では、A組の評価がすべて低くなっています。その他の項目の差が妥当であることを考えますと、A組によって低く評価されている項目については注意すべき問題があるものと考えます。指摘されているテキストの間違いや説明の不十分な点など改善に努めます。

科目名：法医学実習（医学科第4学年後期／必修）  
履修者数：122 配付数：107 回収数：69 回収率：64.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.3	4.1	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9

**\*評価に対するコメント**

法医学実習 担当教員

H24年度のカリキュラム変更により法医学関連講義時間数が激減した為、実習は「演習を取り入れた講義」とせざるを得ないのが現状の中、例年と同様に、骨実習を行った。授業評価の評点は概ね4点以上であり、有意義であったと考えられ、興味をもって受け入れられたことに感謝している。

科目名：自然科学実験（看護学科第1学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：58 回収数：57 回収率：98.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.8	4.4	3.8	3.0	3.5	3.6	3.4	3.5	3.9	3.6	3.3	2.9	3.2	3.7	3.9	3.4	3.4

**\*評価に対するコメント**

自然科学実験 担当教員

**全体**：総合評価は昨年とほぼ同じであり、アンケート項目では問5や13が低い評価であった。実習テーマによっては時間超過や休憩時間が不規則になり、学生の集中力や意欲が必ずしも持続しなかったと考えられる。資料の事前配布や効果的な説明などで時間配分に創意工夫をはかるだけでなく、実習後に課す課題量に関しても見直したい。

**化学**：物理学や生物学に比べて、化学の実習は“ガイダンスに時間がかかりすぎる”、“指導が厳しすぎる”、“講義時間枠内に終わらない”という意見がありました。しかし、皆さんは大きな誤解をしています。化学実習では薬品を扱うので危険が伴います。また、皆さんは将来医療行為の中で医薬品を含む化学物質を扱うこととなりますが、そこでも安全対策や環境保全に対する正確な知識と技能が要求されます。一方、皆さんは今まで安全対策や環境保全に関する教育訓練をほとんど受けたことがありません。さらに、「自然科学実験」でそれらの教育訓練を行うのは化学だけです。事故は絶対に起きてはいけませんから、一人でも分からない人がいれば、徹底的に丁寧に教育します。だから、長く、難しいのです。大変なのは当然です。誤解のないように。また、入学式の翌日に、君たちには時間がないと説明しましたが、憶えていますか？君たちは限られた時間の中で多くのことを学ばなければいけないのです。国家試験があるからではありません。人の命にかかわる仕事に就くからです。実習はできるだけ内容を厳選しています。それでも時間は足りず、皆さんに教えたことはまだまだあるのです。大学の教育を誤解しないように。皆さんが将来医療を担う責任のある立場となることを正しく理解しているならば、冒頭に示した感想は的外れであることが分かるでしょう。大学は高校の延長ではありません。早く誤解を無くして、立派な医療人に成長されることを期待しています。

科目名：心理・コミュニケーション実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：113 配付数：106 回収数：95 回収率：89.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.5	4.2	3.2	3.4	3.6	3.5	3.4	3.3	3.4	3.4	3.4	3.5	3.4	3.2	3.4	3.6	3.6	3.3

**\*評価に対するコメント**

心理・コミュニケーション実習 担当教員

受講者についての評価では、出席（4.2）は高かったものの、受講態度（3.2）は例年よりも低くなった。また、実習全般の評価は「普通」から「良い」の範囲（3.2-3.6）であったが、全体の満足度（3.3）は昨年度よりも低い結果となった。さらに、コメント欄では、前半の心理学関係の実習を評価する声が見られたが、後半の基礎論に対しては批判的なコメントが見られた。これらの結果に基づいて、次年度より、後半の基礎論を取りやめ、認知症ケアメソッドのひとつである「ユマニチュード」の手法を取り入れた臨床コミュニケーション実習に改変する予定である。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：58 回収数：56 回収率：96.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.4	4.9	4.6	4.5	4.4	4.3	4.4	3.9	4.4	4.5	4.0	4.0	3.7	4.1	4.2	4.3	3.9	4.3

**\*評価に対するコメント**

基礎看護技術学Ⅱ 担当教員

概ねの評価は4.0以上で、全体として満足できるものだったようです。教員によって指導の内容が異なるとの指摘がありました。複数の教員が担当する科目ですので、事前の打ち合わせを行っています。また、事後にも意見交換を行っています。指導内容が異なると感じた場合は、なるべく早く科目責任者に伝えていただきたいです。そうすることによって、改善が可能になります。勇気があることかもしれませんが、是非お願いします。

科目名：形態学実習（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：139 配付数：136 回収数：134 回収率：98.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.7	4.5	4.4	4.5	3.6	4.2	3.9	4.4	4.4	4.3	4.1	4.2	4.4	4.3	4.5	4.4	4.4

**\*評価に対するコメント**

形態学実習 担当教員

評価の数値自体は例年とほぼ同じであると考えられる。コメントで指導教員がいない時間帯があるとの指摘があったが、常時3名以上は実習室で巡回している。学生からの質問への対応中は他の質問への対応が遅れることがあるので、理解してほしい。

科目名：生体観察実習（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：57 回収率：93.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.6	4.5	4.4	4.1	4.0	4.1	4.3	4.1	4.1	4.2	3.9	4.0	4.0	4.3	4.1	4.2	4.2	4.3

**\*評価に対するコメント**

生体観察実習 担当教員

医学科や各センターの先生方のご協力のもと、多くの種類の実習を行うことができ、それなりの評価を頂いた。予習と技術習得の項目がやや低い得点だったが、各項目1回限りの実習であるため、やむを得ない面がある。しかし、看護学科で生理学や解剖学の実習を行っている大学は多くはなく、本学は指導教員や施設・設備に恵まれている。忙しい中、各種の実習を熱心に指導して頂いた先生方には、この場を借りて改めて御礼申し上げる。

## 臨地看護実習企画に対する学生評価

実習計画	問1 実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問2 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実習内容	問3 実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問4 実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問5 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問6 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問7 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問8 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実習環境	問9 教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 問10 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総合評価	問11 実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）  
④ やや思う（良い）  
③ どちらとも言えない（普通）  
② あまりそう思わない（あまり良くない）  
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：地域保健看護学実習Ⅱ（看護学科第4学年後期／必修）  
履修者数：68 配付数：67 回収数：41 回収率：61.2%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.3	4.4	4.3	4.2	4.4	4.4	4.2	4.4	4.7	4.6	4.3	4.5

### \*評価に対するコメント

地域保健看護学実習Ⅱ 担当教員

学生の皆さんから満足度の高い評価をいただきました。現形態の実習は、カリキュラム改正により今年度最後となりますが、各保健所約30名と大集団で実習する中、チームで考えること、積極的なディスカッションが実を結んだものと感じております。

地域のケアシステムや行政に所属する保健師の役割を学ぶことで、将来、保健医療福祉の現場で働く際に、地域の社会資源の活用や多職種連携の実践に役立てていただくことを期待しています。

科目名：基礎看護学実習Ⅱ（看護学科第2学年後期／必修）  
履修者数：60 配付数：56 回収数：53 回収率：94.6%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.3	3.6	4.1	3.6	4.1	4.0	4.1	4.5	4.0	4.3	4.3	4.2

### \*評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅱ 担当教員

初めて入院患者を受け持ち、1人の患者の全体像を理解し、計画立案、実施・評価することは看護師になるうえで必要不可欠な学習ではありますが、2年生の皆さんにとって想像を超える困難があったことでしょうか。しかし、ガイダンスをよく理解し、真摯に実習に取り組んでいました。その結果が全体の満足につながったと理解しています。教員間および実習指導者との連携に関しては実習開始前および実習中、随時報告相談し、指導を進めました。寄せられました自由記載は真摯に受け止め、来年度の改善に向けて検討します。

## 医大祭2015を終えて

旭川医科大学大学祭実行委員会 実行委員長 飯田 敏史

2015年度医大祭実行委員会委員長の飯田敏史です。第41回旭川医科大学医大祭「医祭楽祭～いっさいがっさい～ ALL FOR ONE(41)」が6月6日（土）、7日（日）に行われ、無事に終了致しました。

今年度の医大祭のテーマは「医祭楽祭～いっさいがっさい～ ALL FOR ONE(41)」です。私たち医学生は勿論、学生だけではなく、地域住民の方々、医大祭に携わるすべての方々と共に、今まで以上に一丸となって一緒に医大祭を作り上げていきたい、という思いをこのテーマに込め、医大祭を運営して参りました。

講演会では、産婦人科女医で性科学者である宋美玄氏を講師としてお迎えし、「女性のカラダ・悩み」に関して講演していただきました。学生、医療従事者だけでなく、市民の皆様にもわかりやすい講演となっており、質問等が活発に行き交う、盛況な講演会となりました。

医学展示では、医大祭テーマに沿った企画を用意致しました。旭山動物園とのコラボ企画では、旭山

動物園飼育スタッフ責任者の中田真一さんに講演をしていただきました。動物園の日々の動物の様子を、実際の動画を交えながら紹介していただきました。

公開講座では、『「臓器はいかに再生し、維持していくのか？」生命の母なる海＝毛細血管から見えてくること…』と題し、講義が面白いと本学の学生からも評判の高い川辺淳一先生に講義をしていただきました。毛細血管の専門的な知識を市民の方々にもわかりやすく噛み砕いて説明して頂きました。

毎年恒例となりましたお笑いライブでは、総勢五組の芸人さんをお呼びすることができました。チケットは前売りの時点で完売。大盛り上がるのステージとなりました。

他にも多くの企画がありましたが、どれも大盛況のうちに無事に終えることが出来ました。これも全て医大祭に関わって頂いた職員、学生の皆様のおかげだと思っております。本当に有難う御座いました。来年度以降も変わらぬご支援のほど宜しくお願い致します。





第四十一回旭川医科大学学校祭講演会  
「あなたと一緒に考えたい、  
女性のカラダ・悩みの秘密」  
産婦人科医・性科学者 宋美玄先生



## 国民年金の学生納付特例申請が大学内で可能になり、より便利に！

この度、本学が国民年金法の規程に基づく学生納付特例事務法人の指定を受けたことにより、本学の学生支援課の窓口でも、学生納付特例制度の申請手続きが可能になりました。

学生納付特例制度は、学生の皆さんが、申請により保険料の納付が猶予される制度です。この制度を利用することで、万一の事故などにより障害を負ったときの障害基礎年金の受給資格を確保することができます。申請書類は学生支援課にありますので、申請を希望する方は、学生支援課学生総務係までお越してください。住民票を旭川市に移していない方でも、大学内で申請可能です。

### 学生納付特例制度とは？

所得の少ない学生の方が、国民年金保険料の納付を先送り（猶予）できる制度です。

- \* 病気やけがで障害が残ったときも障害基礎年金を受け取ることができます

平成27年度障害基礎年金額 975,100円(1級)

780,100円(2級)

- \* 所得の目安は、 $118万円 + 扶養親族等の数 \times 38万円$  で計算した額以下である場合です。

### 学生納付特例期間の年金はどうなるの？

将来受け取る年金の受給資格期間には算入されますが、年金額には反映されません。

	老齢基礎年金		障害基礎年金（注1） 遺族基礎年金
	受給資格期間への算入	年金額への反映	受給資格期間への算入
納付	○	○	○
学生納付特例	○	×（注2）	○
未納	×	×	×

（注1）障害基礎年金および遺族基礎年金を受け取るには一定の要件があります。

（注2）保険料を10年以内に納付（追納）すると年金額に反映されます。

### 申請時の注意点

#### ○申請できる期間

- \* 過去期間は申請書が受理された月から2年1か月前（既に保険料が納付済の月を除く）まで、将来は年度末まで申請できます。

#### ○申請に必要な書類

- \* 申請書
- \* 年金手帳（氏名記載ページ）のコピーと学生証
- \* 失業等の理由により申請を行う場合は、失業した事実が確認できる雇用保険受給資格証又は雇用保険被保険者離職票等のコピー

## カルト宗教の勧誘に注意を！

カルト団体は、本来の目的を隠し、路上などで直接声をかけてくるほか、ソーシャル・ネットワーク（SNS）等でも、サークル活動やセミナーなどを装って、勧誘活動を行っているケースもあります。北海道内でも、ここ最近、カルト団体による活動が活発化していますので、少しでもおかしいと感じたり、困ったりしていることがあれば、一人で悩まず、周りにいる先生方や学生支援課窓口までご連絡ください。

### 【カルト団体とは？】

反社会的な活動を起こしたり、強制的な勧誘、違法な資金集め、犯罪や虐待等を起こしたりする団体もあります。はじめは軽い気持ちで参加しても、だんだんと抜けられなくなり、自分の意思で脱会することが難しくなります。

### 【対処方法】

- ・名前や住所等の連絡先をむやみに教えない
- ・正体を明かさないうる不審なアンケートや集会に参加しない
- ・見知らぬ人から声をかけられた時は、しっかり相手を確認する。（名刺は信用できない。）
- ・別の場所に、一人で簡単について行かない
- ・相手がよい人に思えても、怪しいなと感じたらきっぱりと断る
- ・少しでもおかしいと思ったら、友達や家族に相談する

### ◆参考

警察庁広報誌「平成26年警備情勢を顧みて」

<https://www.npa.go.jp/archive/keibi/syouten/syouten284/index.html>

日本脱カルト協会

<http://www.jsopr.org/index.htm>

## 平成27年度後期分授業料免除の申請について

本学では、授業料の納入が困難な学生に対して、選考のうえで授業料の全額もしくは半額を免除する制度を設けています。以下の基準のいずれかに該当すると思われる学生で、授業料免除を希望する場合は、次のとおり申請手続を行ってください。

### 1. 授業料免除基準

(1) 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合。

なお、平成27年度において原級に留め置かれている者、又は最短修業年限を超えて在学している者は、免除の対象とはなりません（病気・留学により休学した者は除きます。）。

(2) 授業料納期前6か月以内において、学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡した場合、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が困難であると認められる場合。

(3) (2) に準じる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合。

※授業料滞納者の授業料免除申請は受理しません。

### 2. 申請期間

平成27年8月31日（月）～9月11日（金）17時15分まで（土日祝日を除く。）

### 3. 申請書類提出場所

学生支援課学生総務係

※前後期一括申請をしている方は、申請期間内に「後期分授業料免除申請に係る申告書」を提出してください。

## 平成27年7月以降の役員等について

職 名	氏 名
学長	吉 田 晃 敏
理事, 副学長 (機能強化・評価)	松 野 丈 夫
理事, 副学長 (入試・連携教養教育), 図書館長	藤 尾 均
理事 (非常勤) (地域連携・社会貢献)	竹 中 英 泰
副学長 (教育・研究・情報)	高 井 章
副学長 (医療・地域医療), 病院長	平 田 哲
学長補佐 (機能強化【基礎医学】)	鈴 木 裕
学長補佐 (機能強化【臨床医学】)	千 石 一 雄
学長補佐 (機能強化【看護学科】)	岡 田 洋 子
学長補佐 (機能強化【一般教育】)	三 好 暢 博
学長補佐 (国際交流・地域連携・産学連携)	吉 田 貴 彦
学長補佐 (メンタルヘルス)	千 葉 茂
学長補佐 (大学基金)	原 渕 保 明
副病院長 (事故防止・安全問題)	古 川 博 之
副病院長 (病院運営)	松 田 光 悦
副病院長 (事故防止・安全問題・患者サービス・ボランティア)	上 田 順 子
病院長補佐 (医療連携)	廣 川 博 之
病院長補佐 (先進医療)	大 崎 能 伸
病院長補佐 (先進医療)	鎌 田 恭 輔
病院長補佐 (国際連携)	東 信 良
病院長補佐 (外来)	伊 藤 浩
病院長補佐 (経営改善)	田 崎 嘉 一
病院長補佐 (経営改善)	友 田 豊
監事 (業務)	宮 森 雅 司
監事 (会計)	高 野 一 夫

## 教 員 の 異 動

平成27年7月1日 採 用 医学部看護学講座 教授

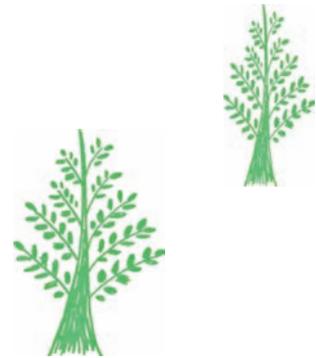
教 授 長谷川 博 亮

## 今後のスケジュール

- 8月27日（木） 体育大会
- 9月16日（水） 解剖体慰霊式（医学科第3学年、看護学科第2学年）
- 10月1日（木） 医学科第2年次後期編入学式
- 11月5日（木） 本学記念日

### 後期授業開始

- 9月18日（金） 医学科第4学年
- 9月24日（木） 医学科第3学年、看護学科第3学年
- 9月28日（月） 医学科第1学年、看護学科第1・2学年、  
看護学科第4学年
- 10月1日（木） 医学科第2学年



## 第160号表紙

今月号の表紙の写真は、6月6日（土）・7日（日）に開催された第41回旭川医科大学医大祭「医祭楽祭～いっさいがっさい～ ALL FOR ONE(41)」での様子。本学学生の生き生きとした様子が詰まっています。医大祭実行委員長 飯田 敏史さんによる記事（35ページ）も併せてご覧ください。

学生支援課では、皆さんからの写真を募集しています。

課外活動での様子、旅先での1枚など気軽に応募してください。

ご提供いただける方は、学生支援課学生総務係までご連絡ください。

